第２章

高齢者福祉に関するアンケート調査

（65 歳以上の方）

第２章　高齢者福祉に関するアンケート調査結果（65 歳以上の方）

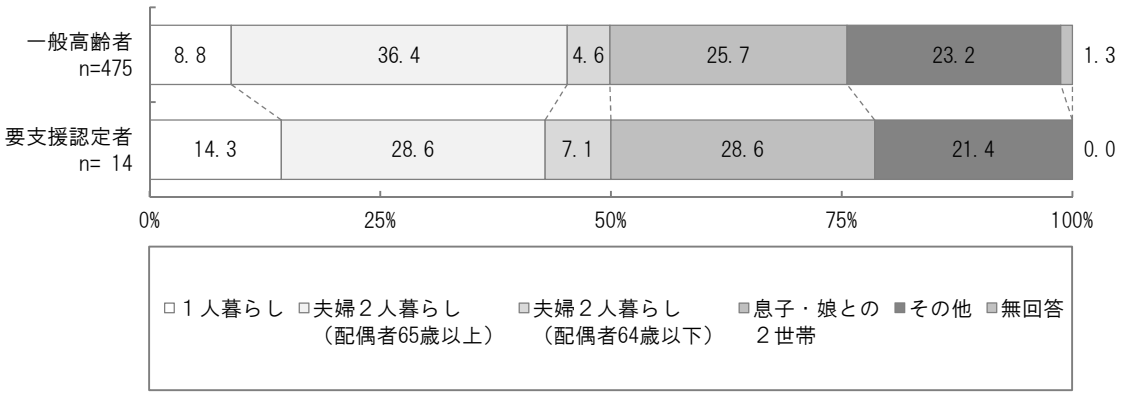
対象者は要支援認定者または要介護認定を受けていない方です。
ここでは要支援認定を受けている方を「要支援認定者」、要支援・要介護認定を受けていない方を「一般高齢者」として表示します。

１　あなたのご家族や生活状況について

（１）家族構成

○家族構成をみると、一般高齢者では「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」（36.4%）が最も多く、次いで「息子・娘との２世帯」（25.7%）の順となっています。
要支援認定者では「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」「息子・娘との２世帯」（各 28.6%）が最も多く、次いで「１人暮らし」（14.3%）の順となり、一般高齢者より「１人暮らし」の割合が 5.5ポイント高くなっています。

問1-(1)　家族構成

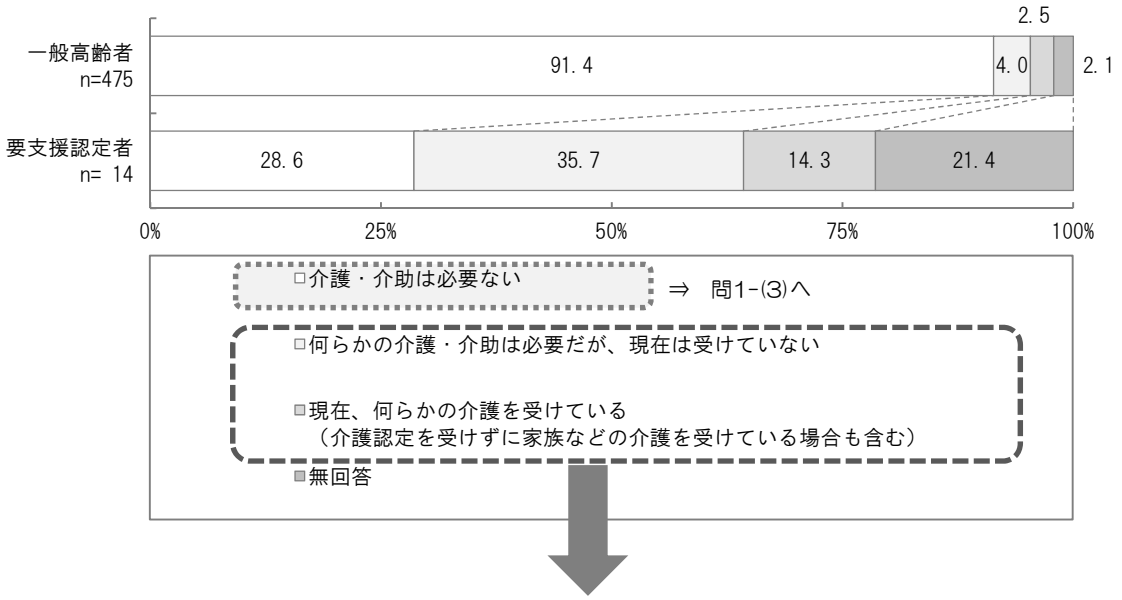


（２）日常生活における要介護（介助）者の有無

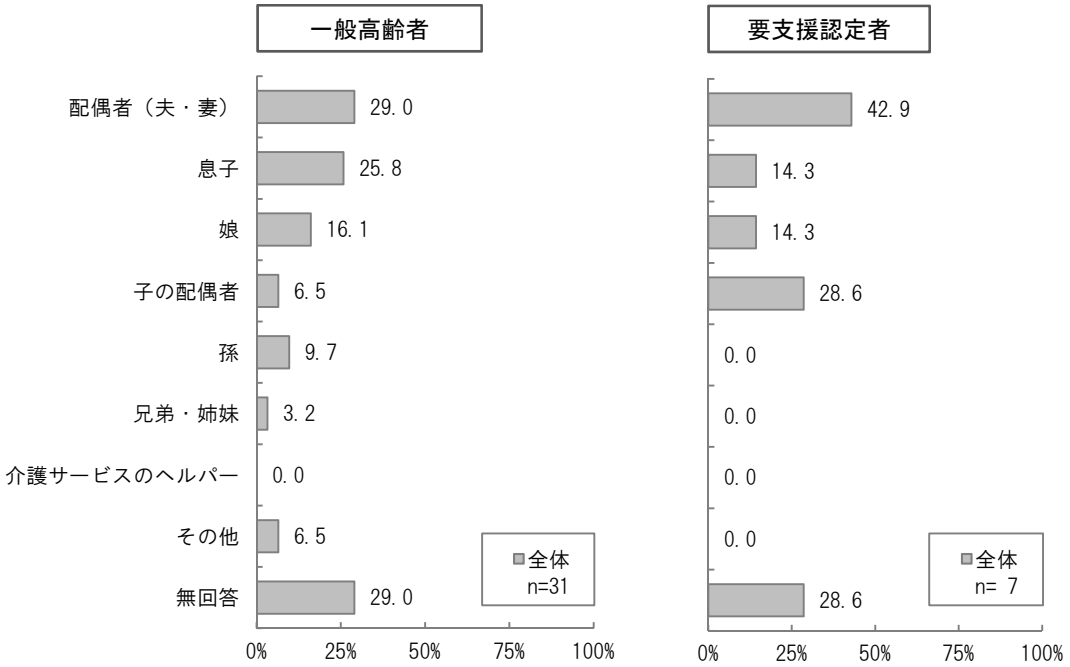
○普段の生活で介護・介助が必要かをみると、一般高齢者では「介護・介助は必要ない」（91.4%）が最も多くなっています。
要支援認定者では、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」（35.7%）が最も多くなっています。

○介護・介助をしてくれる人をみると、一般高齢者では「配偶者（夫・妻）」（29.0%）が最も多く、次いで「息子」（25.8%）、「娘」（16.1%）の順となっています。
要支援認定者では、「配偶者（夫・妻）」（42.9%）が最も多く、次いで「子の配偶者」（28.6%）、「息子」「娘」（各 14.3%）の順となっています。

問1-(2)　普段の生活で介護・介助が必要か



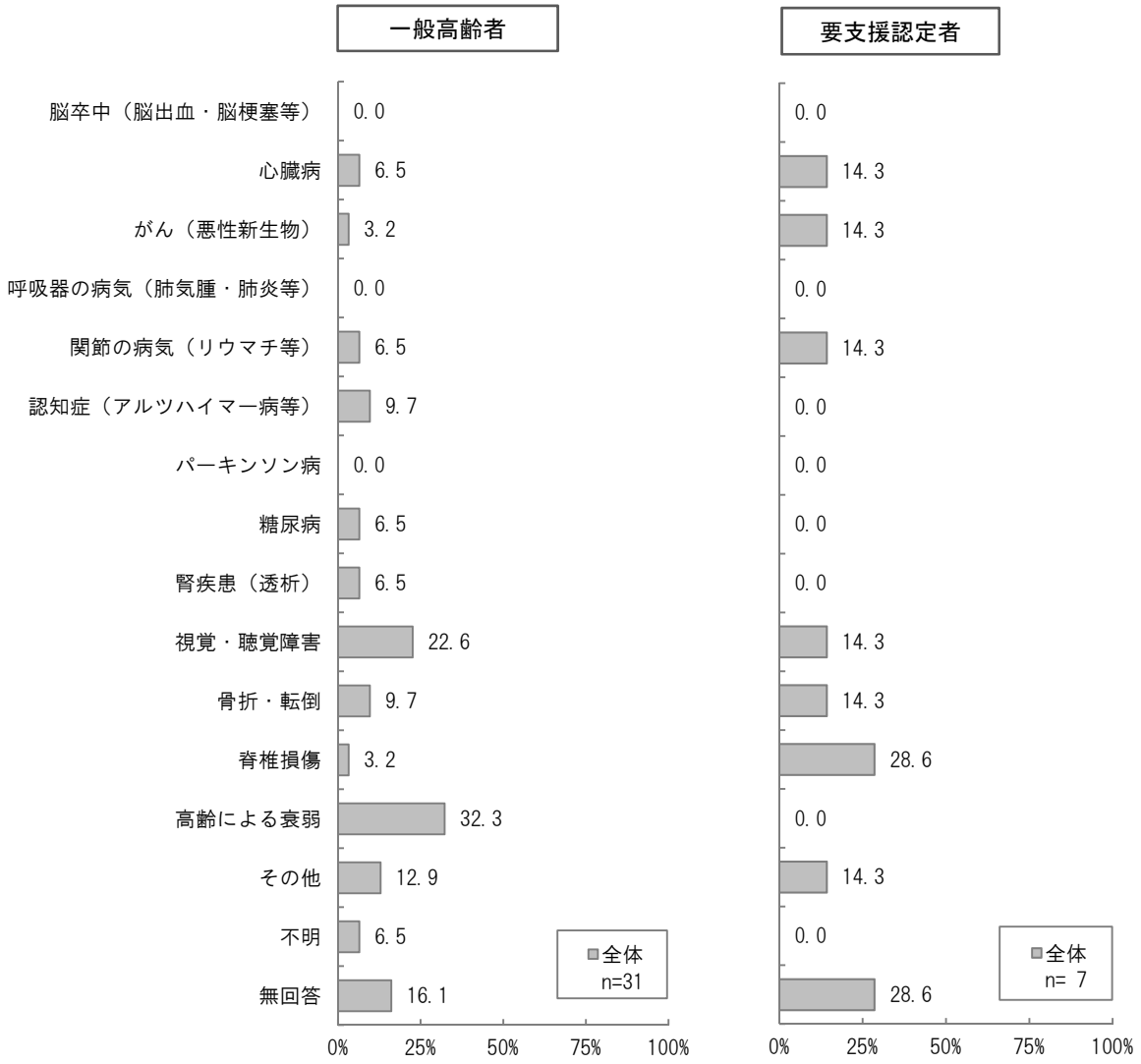
問1-(2).②　介護・介助をしてくれる人



○介護・介助が必要になった主な原因をみると、一般高齢者では「高齢による衰弱」（32.3%）が最も多く、次いで「視覚・聴覚障害」（22.6%）、「認知症（アルツハイマー病）」「骨折・転倒」（各 9.7%）の順となっています。

※要支援認定者は対象者が少人数のため分析できません。

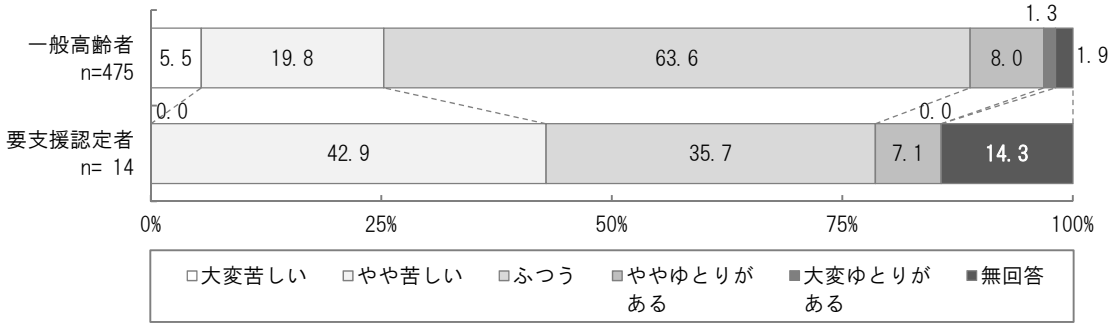
問1-(2).①　介護・介助が必要になった主な原因



（３）現在の経済的状況

○現在の暮らしの経済的状況をみると、一般高齢者では「ふつう」（63.6%）が最も多く、次いで「やや苦しい」（19.8%）の順となっています。
要支援認定者では「やや苦しい」（42.9%）が最も多く、次いで「ふつう」（35.7%）となっています。

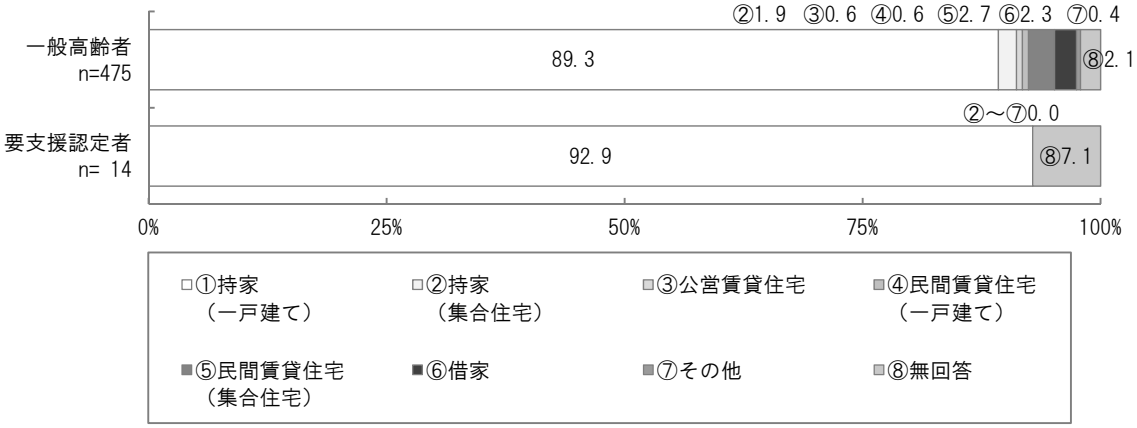
問1-(3)　現在の暮らしの経済的状況



（４）現在の居住環境

○現在暮らしている家の状況をみると、一般高齢者・要支援認定者ともに「持家（一戸建て）」（89.3%・92.9%）が最も多くなっています。

問1-(4)　現在暮らしている家の状況



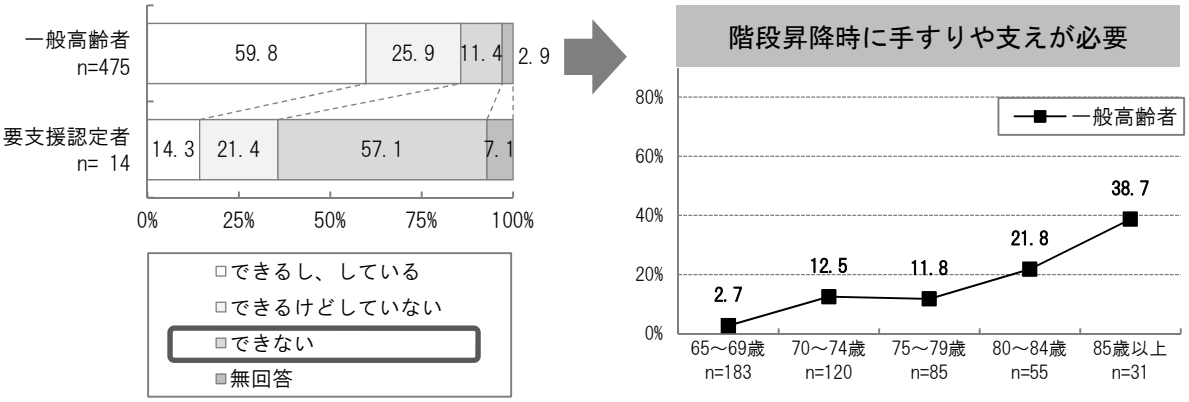
２　からだを動かすことについて

（１）運動機能の状況

○階段を手すりや壁をつたわらずに昇ることができるかをみると、一般高齢者では 11.4%が「できない」と回答しており、年齢階級別にみると 80 歳以上で割合が高くなっています。
要支援認定者では 57.1%が「できない」と回答しており、一般高齢者より 45.7ポイント高くなっています。

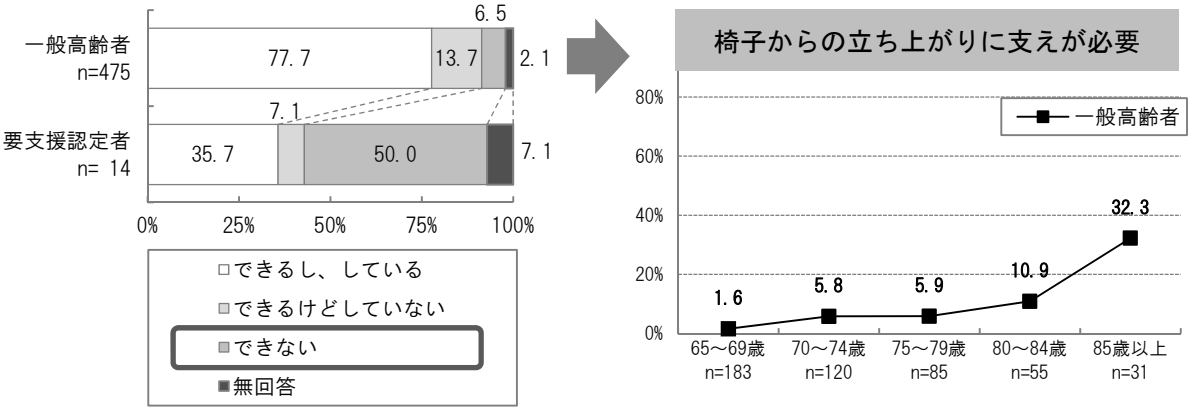
○椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができるかをみると、一般高齢者では 6.5%が「できない」と回答しており、年齢階級別にみると 85 歳以上で割合が高くなっています。
要支援認定者では 50.0%が「できない」と回答しており、一般高齢者より 43.5ポイント高くなっています。

問2-(1)　階段を手すりや壁をつたわらずに昇ることができるか



※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

問2-(2)　椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができるか

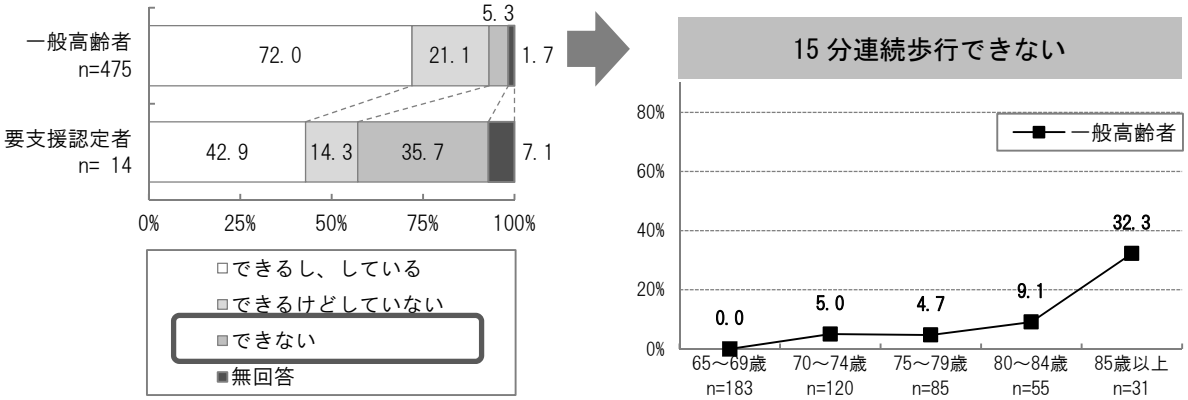


※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

○15 分位続けて歩くことができるかをみると、一般高齢者では 5.3%が「できない」と回答しており、年齢階級別にみると 85 歳以上で割合が高くなっています。
要支援認定者では 35.7%が「できない」と回答しており、一般高齢者より 30.4ポイント高くなっています。

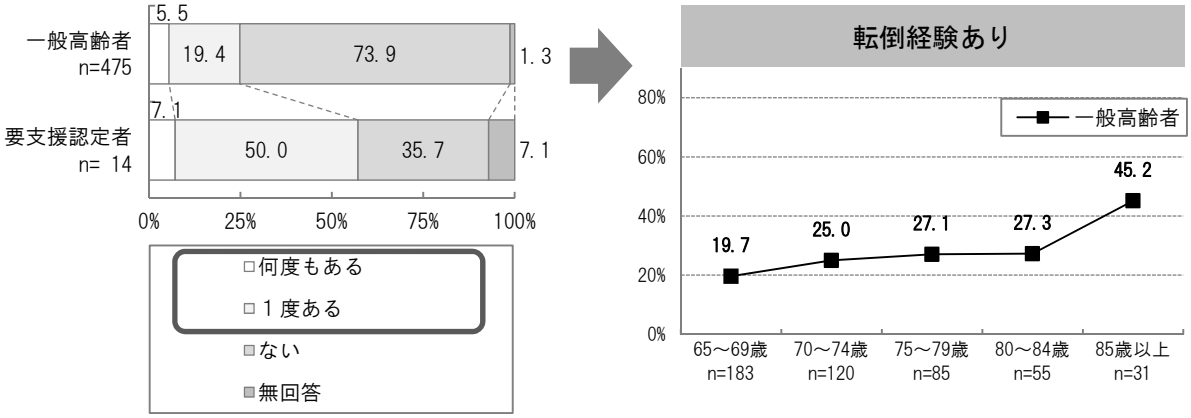
○過去１年間に転んだ経験の有無をみると、一般高齢者では「何度もある」（5.5%）と「１度ある」（19.4%）を合わせると 24.9%となり、年齢階級別にみると 85 歳以上で割合が高くなっています。
要支援認定者では「何度もある」（7.1%）と「１度ある」（50.0%）を合わせると 57.1%となり、一般高齢者より 32.2ポイント高くなっています。

問2-(3)　15分位続けて歩くことができるか



※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

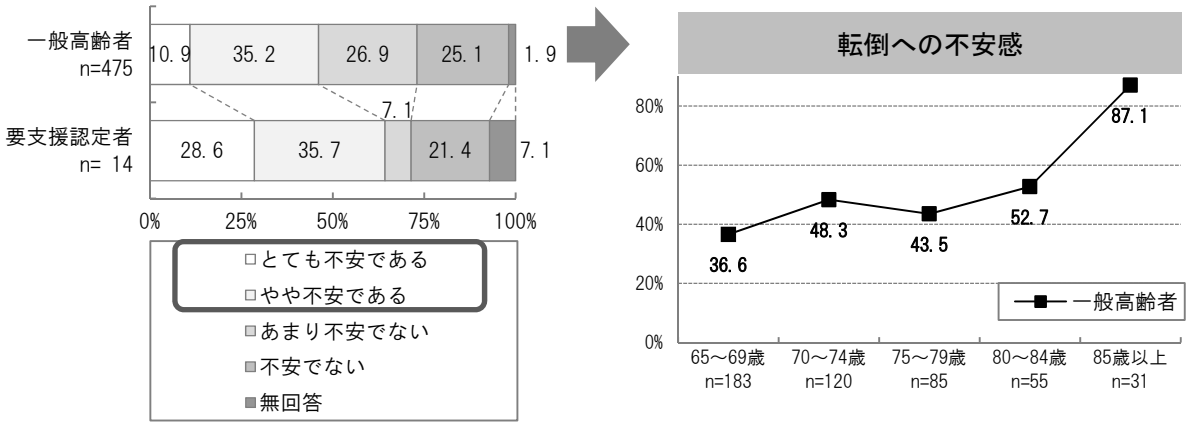
問2-(4)　過去１年間に転んだ経験の有無



※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

○転倒に対する不安の有無をみると、一般高齢者では「とても不安である」（10.9%）と「やや不安である」（35.2%）を合わると 46.1%となり、年齢階級別にみると 80 歳以上で割合が 50%を超えています。
要支援認定者では「とても不安である」（28.6%）と「やや不安である」（35.7%）を合わせると 64.3%となり、一般高齢者より 18.2ポイント高くなっています。

問2-(5)　転倒に対する不安の有無



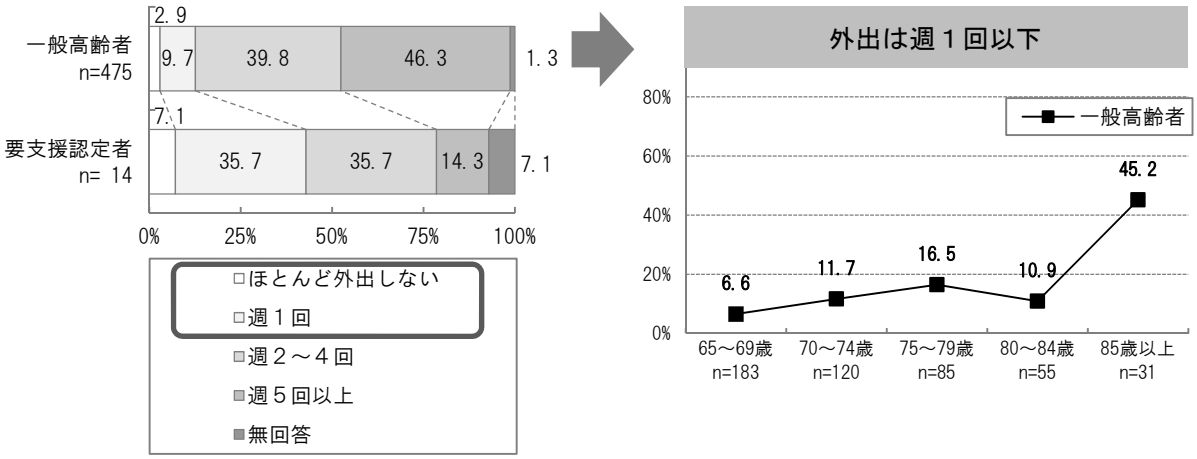
※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

（２）外出の状況

○週に１回以上の外出の有無をみると、一般高齢者では「ほとんど外出しない」（2.9%）と「週１回」（9.7%）を合わせると 12.6%となり、年齢階級別にみると 85 歳以上で割合が高くなっています。
要支援認定者では「ほとんど外出しない」（7.1%）と「週１回」（35.7%）を合わせると 42.8%となり、一般高齢者より 30.2ポイント高くなっています。

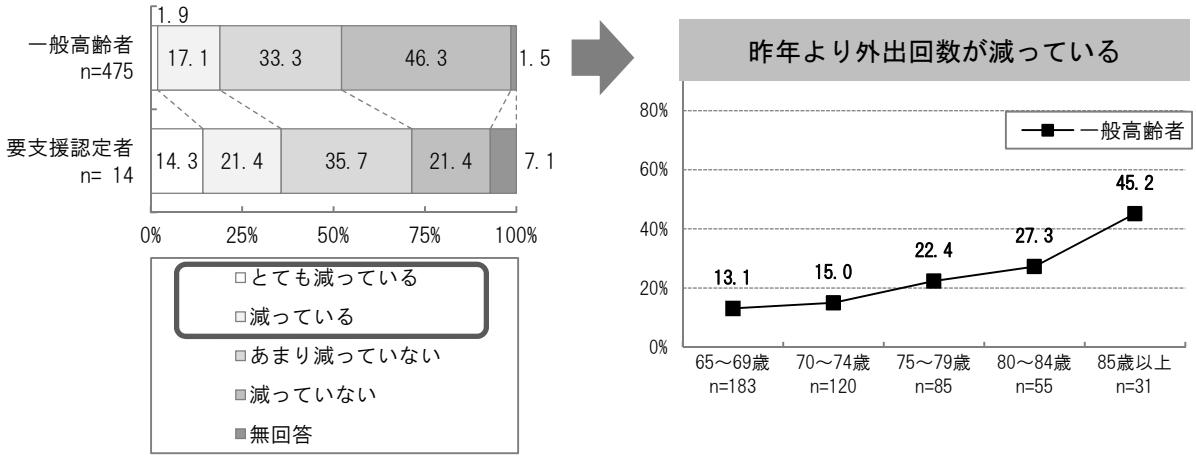
○昨年と比べた外出の頻度をみると、一般高齢者では「とても減っている」（1.9%）と「減っている」（17.1%）を合わせると 19.0%となり、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。
要支援認定者では「とても減っている」（14.3%）と「減っている」（21.4%）を合わせると 35.7%となり、一般高齢者より 16.7ポイント高くなっています。

問2-(6)　週に１回以上の外出の有無



※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

問2-(7)　昨年と比べた外出の頻度



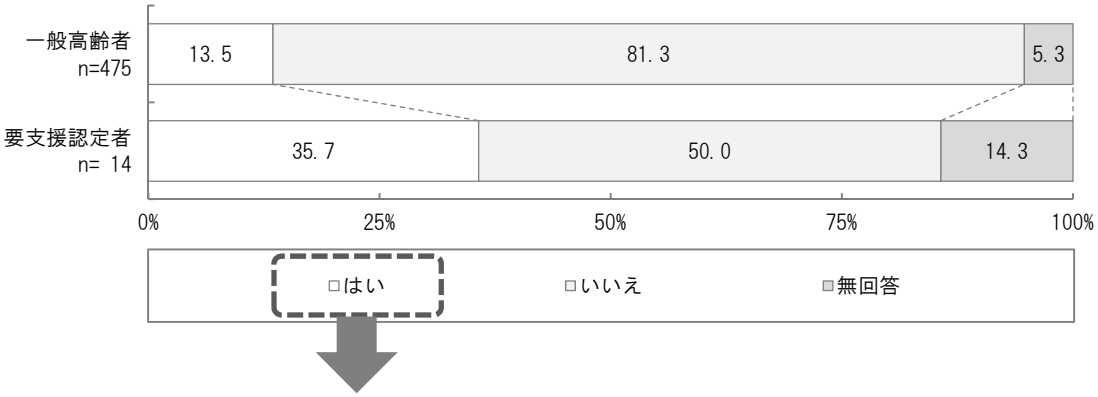
※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

○外出を控えているかをみると、一般高齢者では 13.5%が控えていると回答しています。要支援認定者では 35.7%が控えていると回答しており、一般高齢者より 22.2ポイント高くなっています。

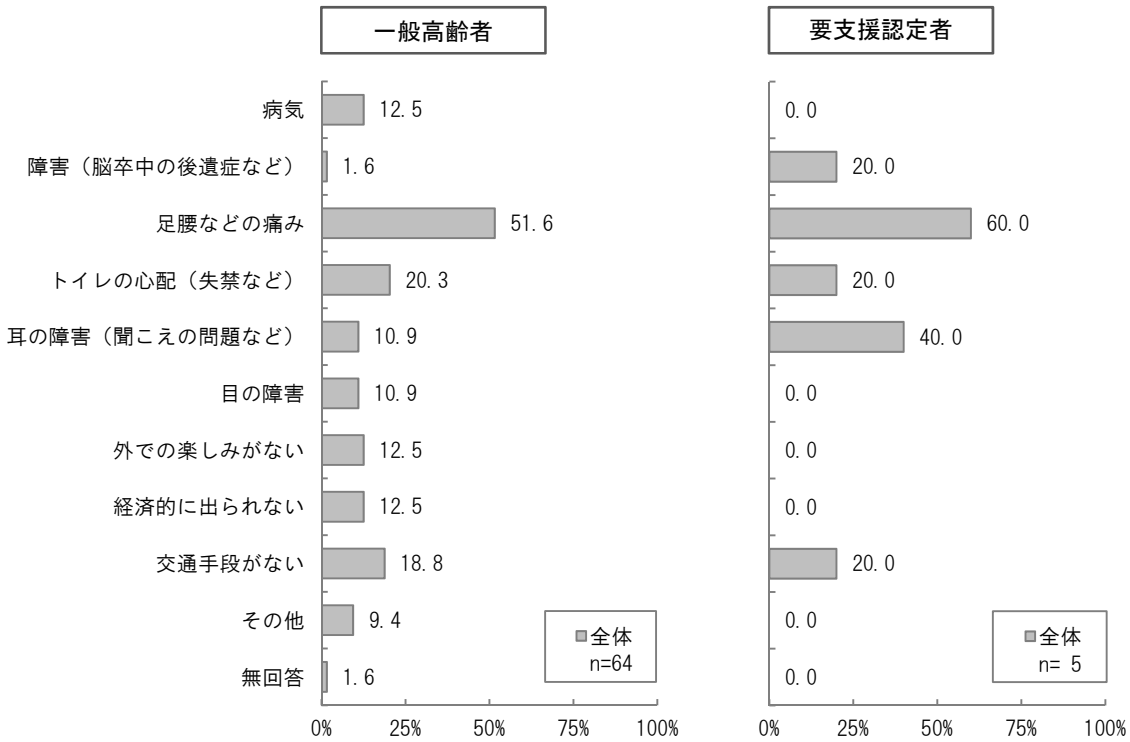
○外出を控えている理由をみると、一般高齢者では「足腰などの痛み」（51.6%）が最も多く、次いで「トイレの心配（失禁など）」（20.3%）、「交通手段がない」（18.8%）、「病気」「外での楽しみがない」「経済的に出られない」（各 12.5%）、「耳の障害（聞こえの問題など）」「目の障害」（各 10.9%）の順となっています。

※要支援認定者は対象者が少人数のため分析できません。

問2-(8)　外出を控えているか

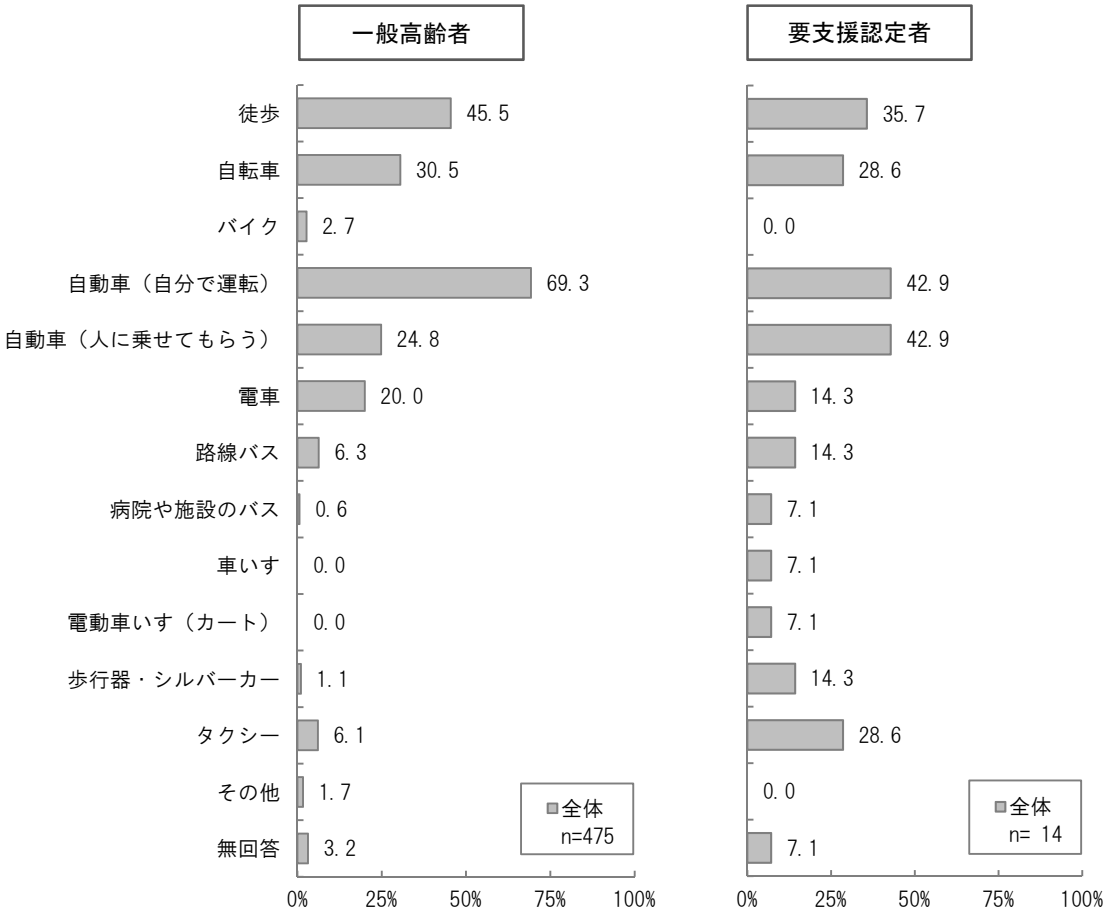


問2-(8).①　外出を控えている理由



○外出する際の移動手段をみると、一般高齢者では「自動車（自分で運転）」（69.3%）が最も多く、次いで「徒歩」（45.5%）、「自転車」（30.5%）、「自動車（人に乗せてもらう）」（24.8%）、「電車」（20.0%）の順となっています。
要支援認定者では「自動車（自分で運転）」「自動車（人に乗せてもらう）」（各 42.9%）が最も多く、次いで「徒歩」（35.7%）、「自転車」「タクシー」（各 28.6%）、「電車」「路線バス」「歩行器・シルバーカー」（各 14.3%）の順となり、一般高齢者と比べて「病院や施設のバス」「車いす」「電動車いす（カート）」「歩行器・シルバーカー」「タクシー」の利用が多くなっています。

問2-(9)　外出する際の移動手段



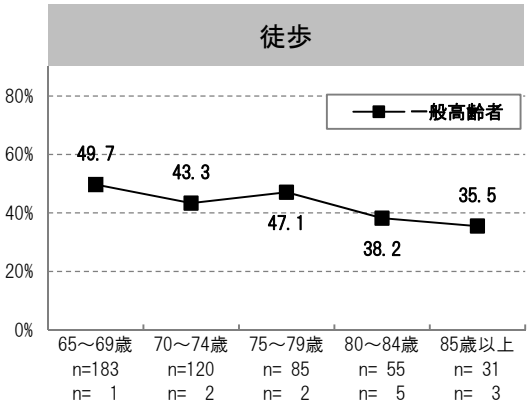
○外出する際の移動手段をそれぞれ年齢階級別にみると、「徒歩」では全ての年齢階級において 40%前後の割合となっています。

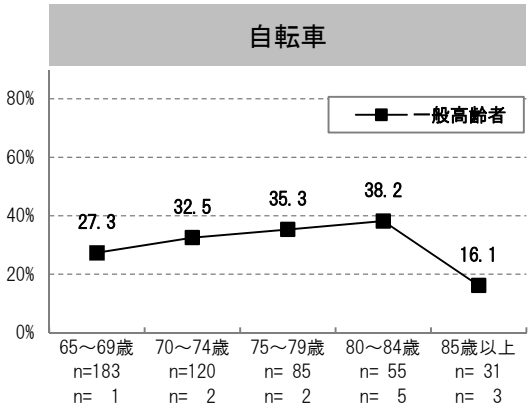
○「自動車」では、「自分で運転」は加齢とともに割合が低くなり、「人に乗せてもらう」は加齢とともに割合が高くなっています。

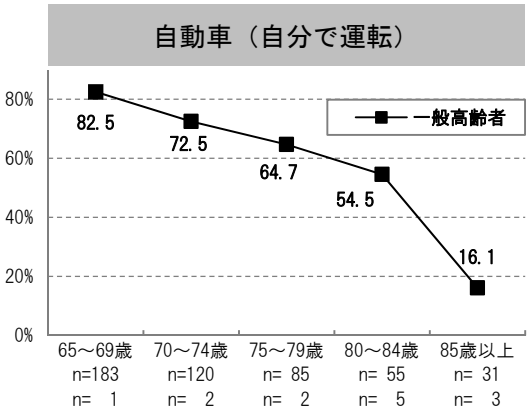
○「タクシー」では、加齢とともに割合が高くなっています。

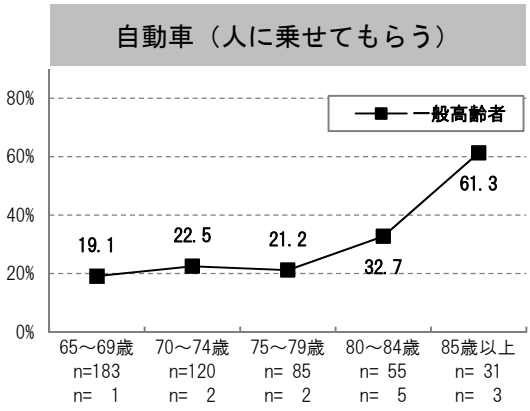
※要支援認定者は対象者が少人数のため分析できません。

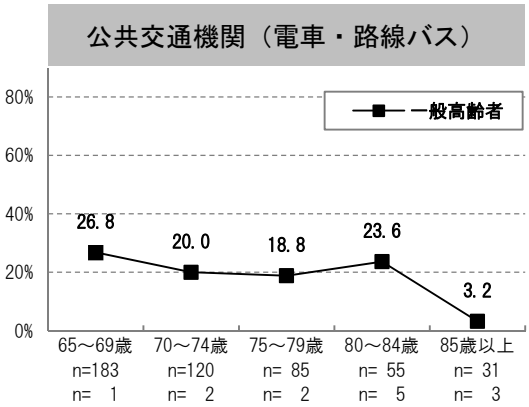
問2-(9)　年齢階級別移動手段

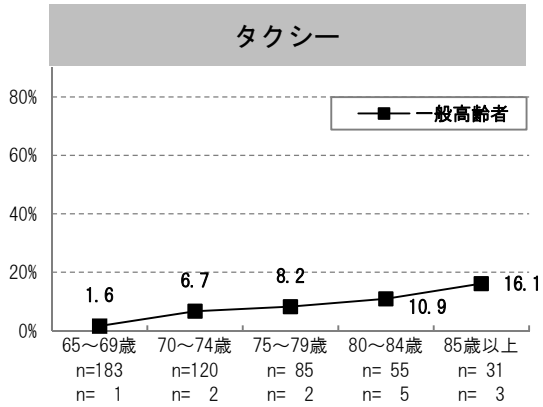












※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

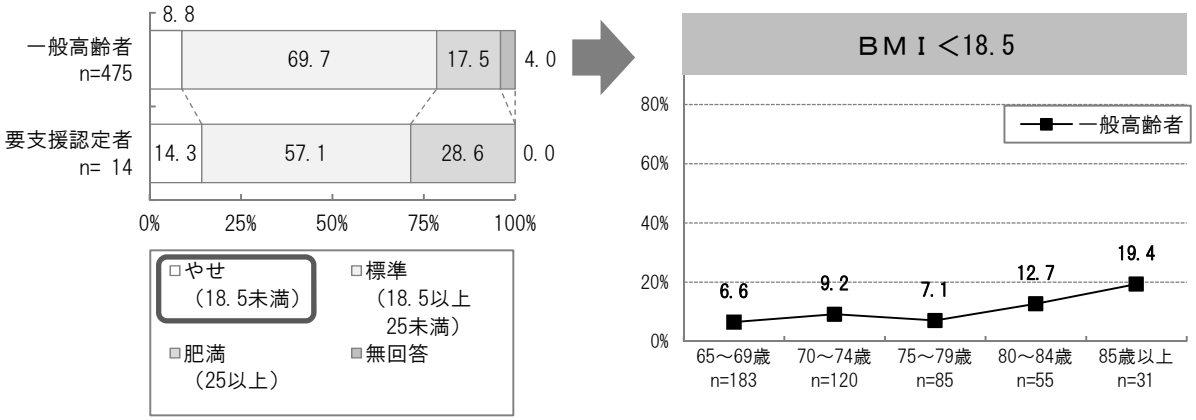
３　食べることについて

（１）体格指数（ＢＭＩ）

○現在の体重を体格指数（ＢＭＩ）でみると、一般高齢者では「やせ（18.5 未満）」が 8.8%となり、年齢階級別にみると 80 歳以上で割合が高くなっています。
要支援認定者では「やせ（18.5 未満）」が 14.3%となっており、一般高齢者より 5.5ポイント高くなっています。

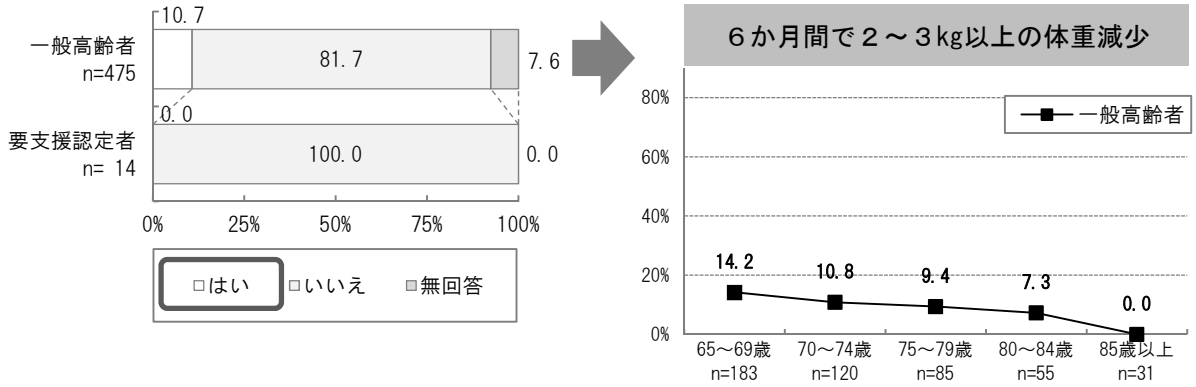
○６か月間で２～３kg 以上の体重減少の有無をみると、一般高齢者では 10.7%があると回答しており、年齢階級別にみると加齢とともに割合が低くなっています。
要支援認定者では２～３kg 以上の体重減少があると回答した方はいません。

問3-(1)　体格指数（ＢＭＩ）



※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

問3-(8)　６か月間で２～３kg以上の体重減少の有無



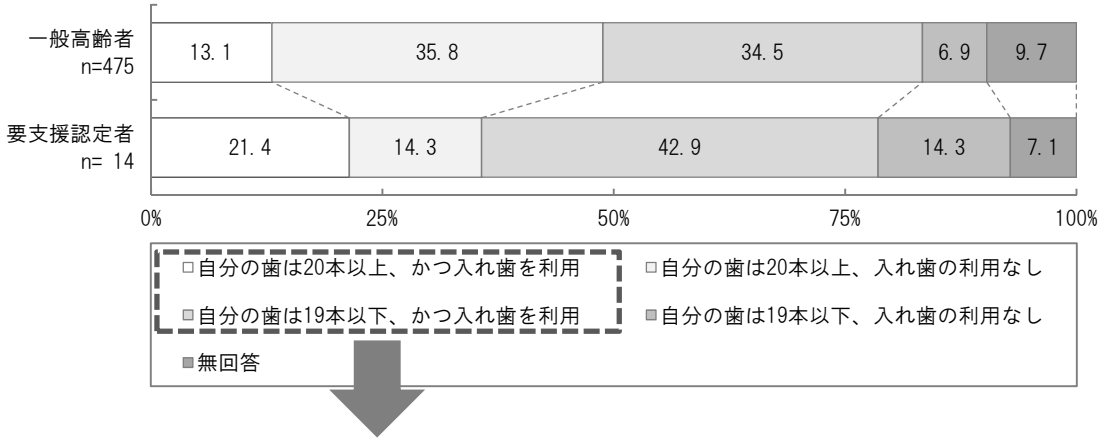
※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

（２）歯・口腔の状況

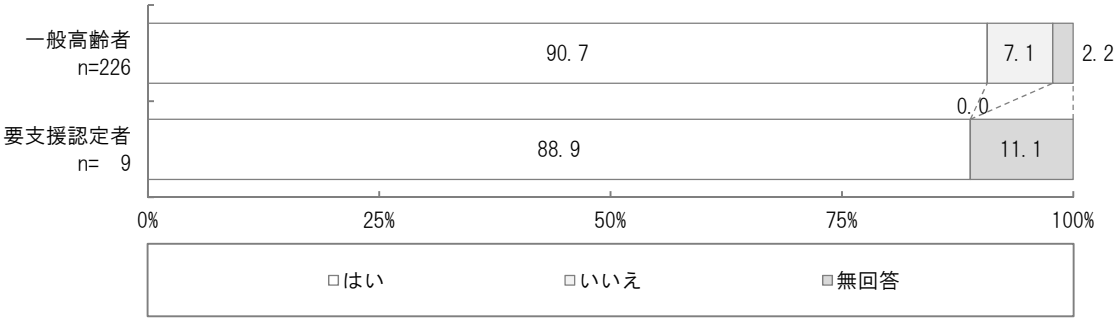
○歯の数と入れ歯の利用状況をみると、一般高齢者では「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」（34.5%）と「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」（13.1%）を合わせた入歯利用者の割合は 47.6%となっています。
要支援認定者では「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」（42.9%）と「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」（21.4%）を合わせた入歯利用者の割合は 64.3%となり、一般高齢者より 16.7ポイント高くなっています。

○毎日入れ歯の手入れをしているかをみると、一般高齢者では 90.7%が手入れをしていると回答しています。
要支援認定者では 88.9%が手入れをしていると回答しており、一般高齢者より 1.8ポイント低くなっています。

問3-(7)　歯の数と入れ歯の利用状況



問3-(7).①　毎日入れ歯の手入れをしているか

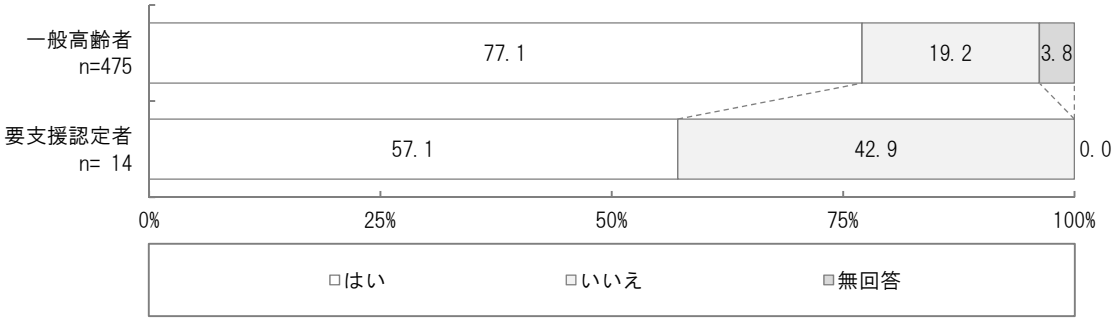


○噛み合わせは良いかをみると、一般高齢者では 19.2%、要支援認定者は 42.9%がかみ合わせが悪いと回答し、要支援認定者が 23.7ポイント高くなっています。

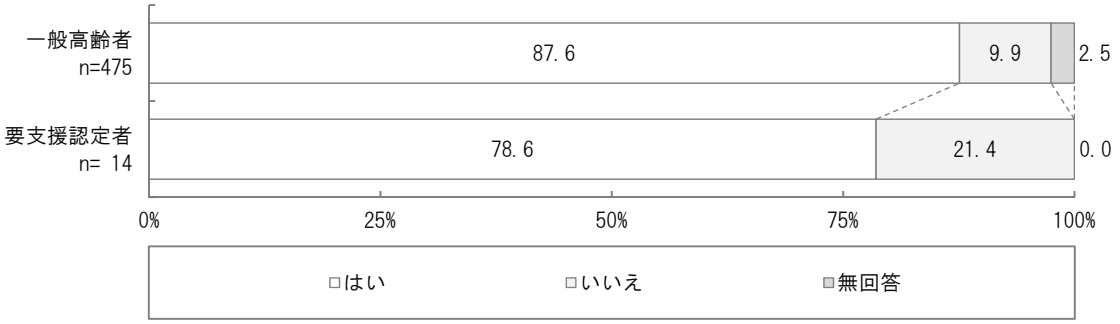
○歯磨きを毎日しているかをみると、一般高齢者では 87.6%、要支援認定者は 78.6%が毎日していると回答し、要支援認定者が 9.0ポイント低くなっています。

○半年前に比べて固いものが食べにくくなったかをみると、一般高齢者では 26.5%が食べにくくなったと回答しており、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。要支援認定者では 50.0%が食べにくくなったと回答しており、一般高齢者より 23.5ポイント高くなっています。

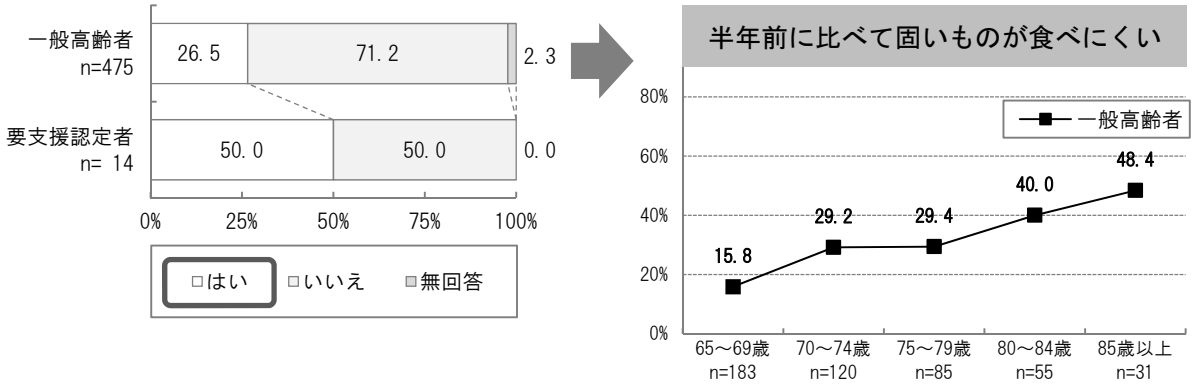
問3-(6)　噛み合わせは良いか



問3-(5)　歯磨きを毎日しているか



問3-(2)　半年前に比べて固いものが食べにくくなった

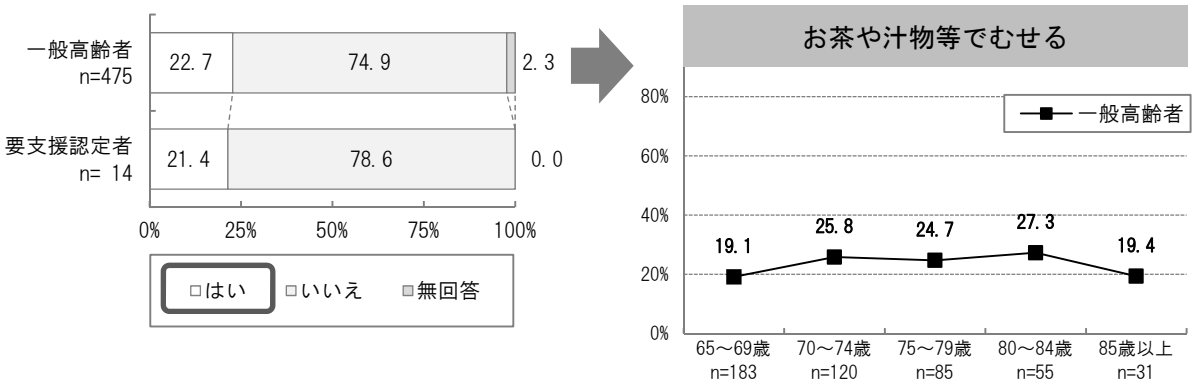


※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

○お茶や汁物等でむせることの有無をみると、一般高齢者では 22.7%がむせることがあると回答し、年齢階級別にみると 70～84 歳で割合が 20%台となっています。
要支援認定者では 21.4%があると回答しており、一般高齢者より 1.3ポイント低くなっていま

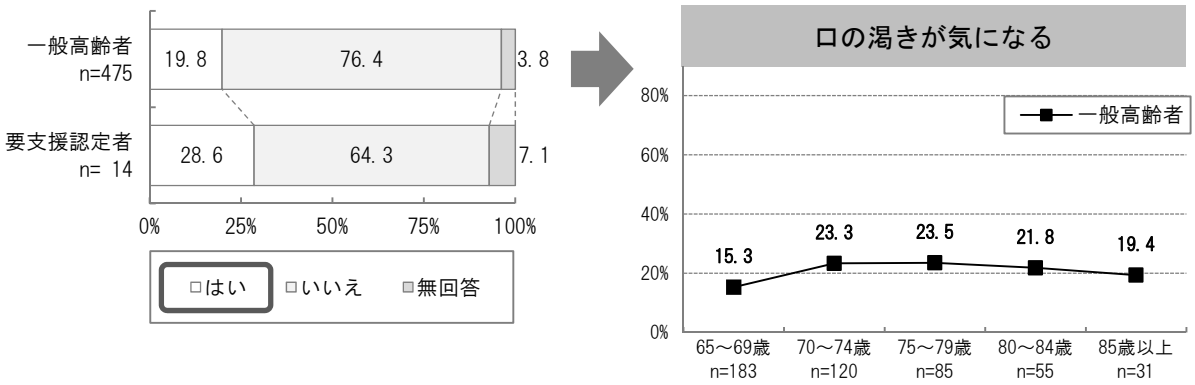
○口の渇きが気になるかをみると、一般高齢者では 19.8%が気になると回答し、年齢階級別にみると 70 歳以上において 20%前後となっています。
要支援認定者では 28.6%が気になると回答しており、一般高齢者より 8.8ポイント高くなっています。

問3-(3)　お茶や汁物等でむせることの有無



※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

問3-(4)　口の渇きが気になるか

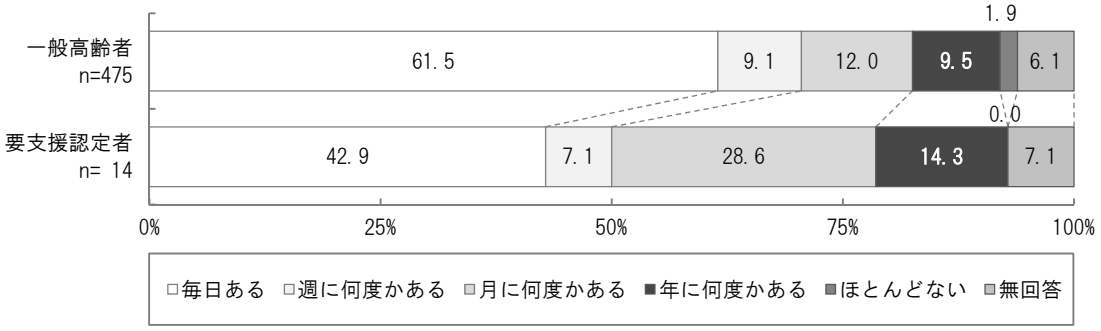


※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

（３）食事の状況

○どなたかと食事をともにする機会の有無をみると、一般高齢者では「毎日ある」（61.5%）が最も多く、次いで「月に何度かある」（12.0%）、「年に何度かある」（9.5%）の順となっています。
要支援認定者では「毎日ある」（42.9%）が最も多く、次いで「月に何度かある」（28.6%）、「年に何度かある」（14.3%）の順となっており、一般高齢者と同様の傾向にあります。ただし、「毎日ある」では一般高齢者が 18.6ポイント高くなっています。

問3-(9)　どなたかと食事をともにする機会の有無



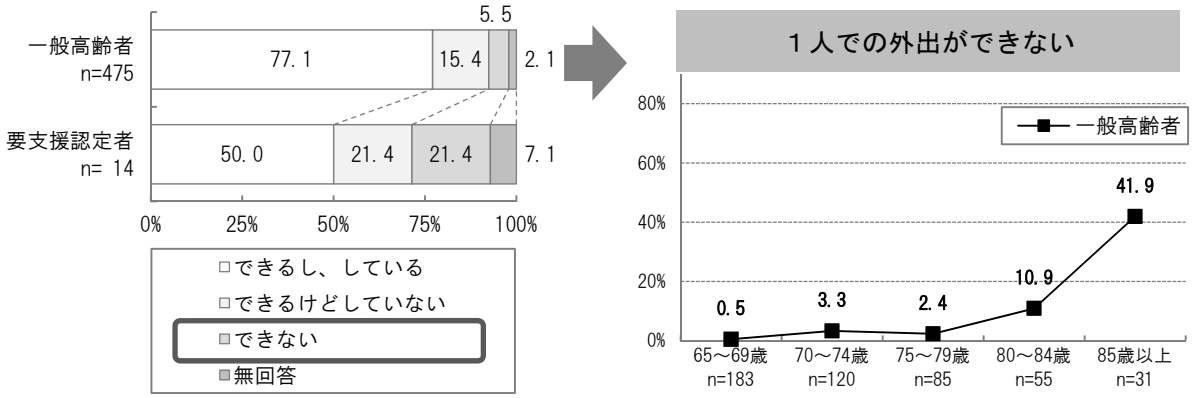
４　毎日の生活について

（１）ＩＡＤＬ（手段的自立度）の状況

○バスや電車を使って１人で外出しているかをみると、一般高齢者では 5.5%が「できない」と回答し、年齢階級別にみると 80 歳以上で割合が高くなっています。
要支援認定者では 21.4%が「できない」と回答しており、一般高齢者より 15.9ポイント高くなっています。

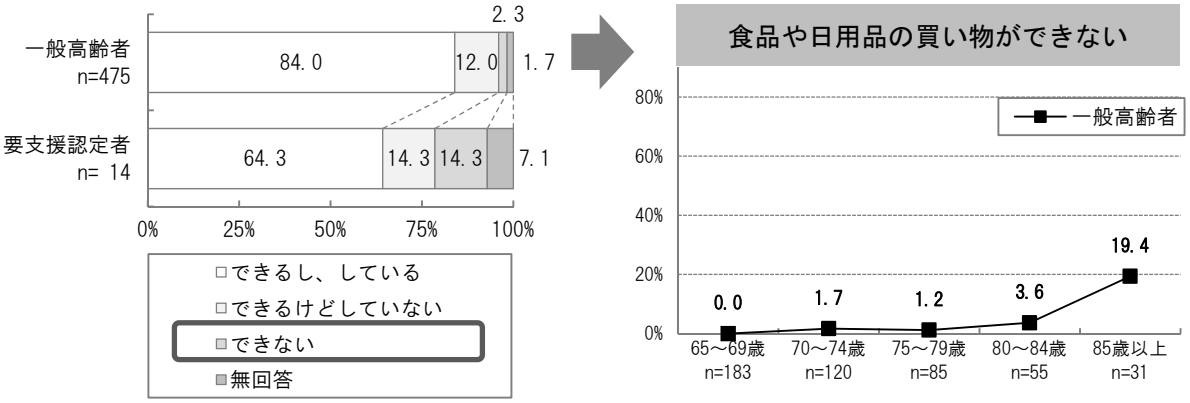
○自分で食品・日用品の買物をしているかをみると、一般高齢者では 2.3%が「できない」と回答しており、年齢階級別にみると 80 歳以上で割合が高くなっています。
要支援認定者では 14.3%が「できない」と回答しており、一般高齢者より 12.0ポイント高くなっています。

問4-(4)　バスや電車を使って１人で外出しているか



※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

問4-(5)　自分で食品・日用品の買物をしているか

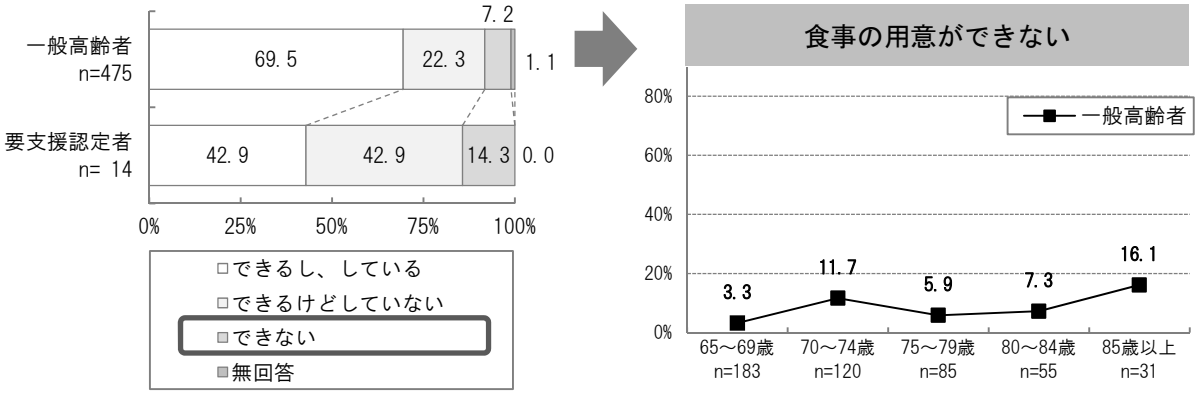


※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

○自分で食事の用意をしているかをみると、一般高齢者では 7.2%が「できない」と回答しており、全ての年齢階級において 10%前後います。
要支援認定者では 14.3%が「できない」と回答しており、一般高齢者より 7.1ポイント高くなっています。

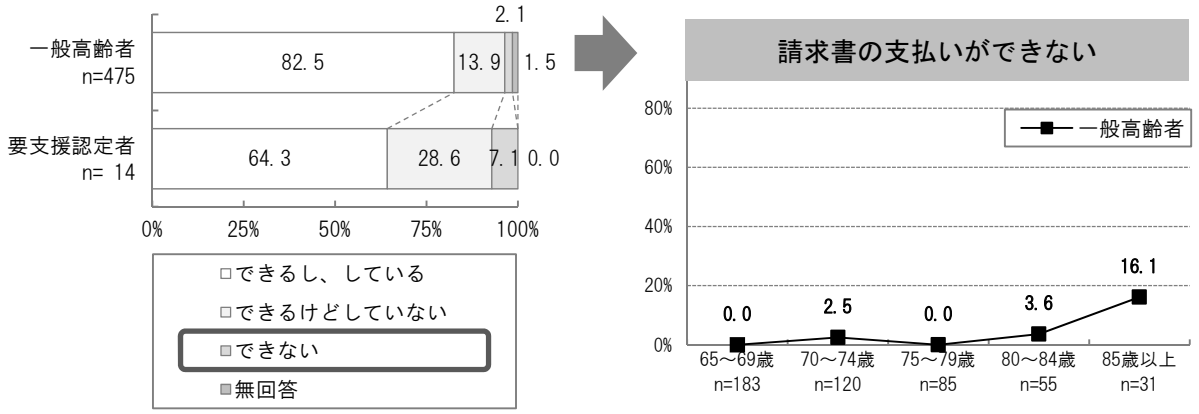
○自分で請求書の支払いをしているかをみると、一般高齢者では 2.1%が「できない」と回答しており、年齢階級において 10%前後います。
要支援認定者では 7.1%が「できない」と回答しており、一般高齢者より 5.0ポイント高くなっています。

問4-(6)　自分で食事の用意をしているか



※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

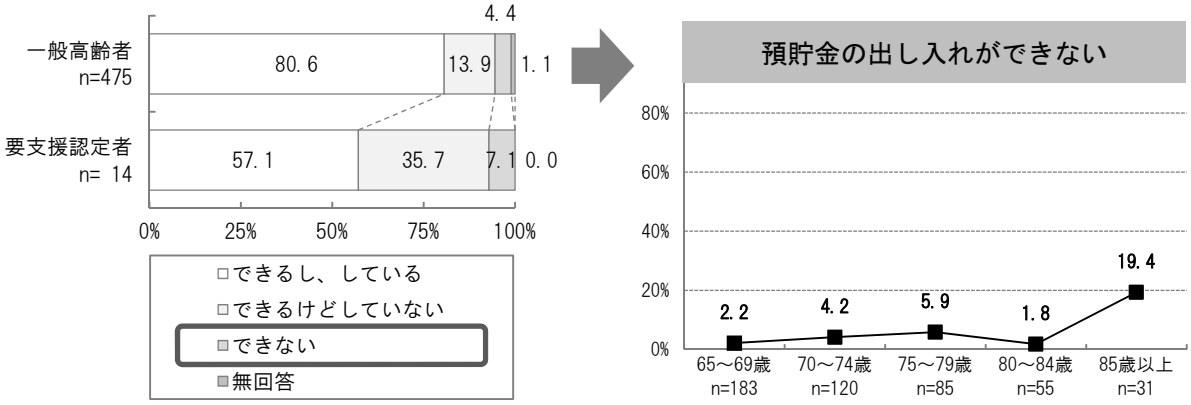
問4-(7)　自分で請求書の支払いをしているか



※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

○自分で預貯金の出し入れをしているかをみると、一般高齢者では 4.4%が「できない」と回答しており、年齢階級別にみると 85 歳以上で割合が高くなっています。
要支援認定者では 7.1%が「できない」と回答しており、一般高齢者より 2.7ポイント高くなっています。

問4-(8)　自分で預貯金の出し入れをしているか

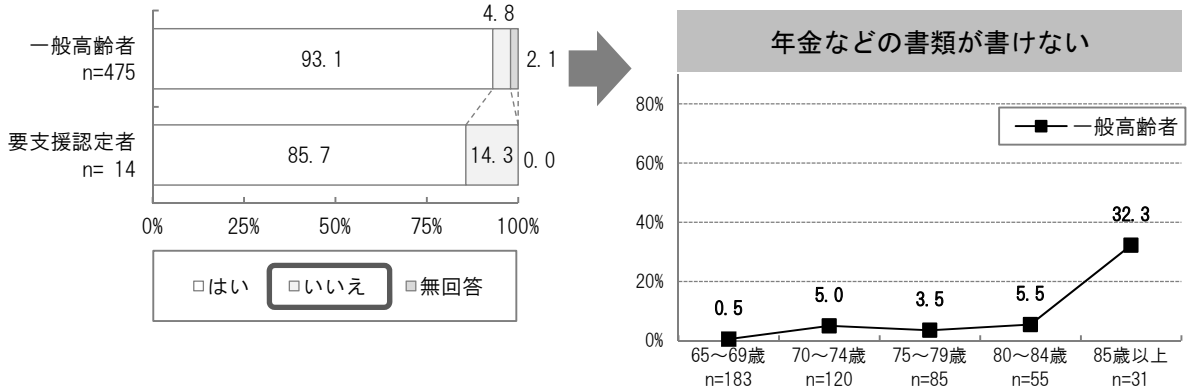


※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

（２）社会参加（知的能動性）の状況

○年金などの書類が書けるかをみると、一般高齢者では 4.8%が書けないと回答しており、年齢階級別にみると 85 歳以上で割合が高くなっています。
要支援認定者では 14.3%が書けないと回答しており、一般高齢者より 9.5ポイント高くなっています。

問4-(9)　年金などの書類が書けるか

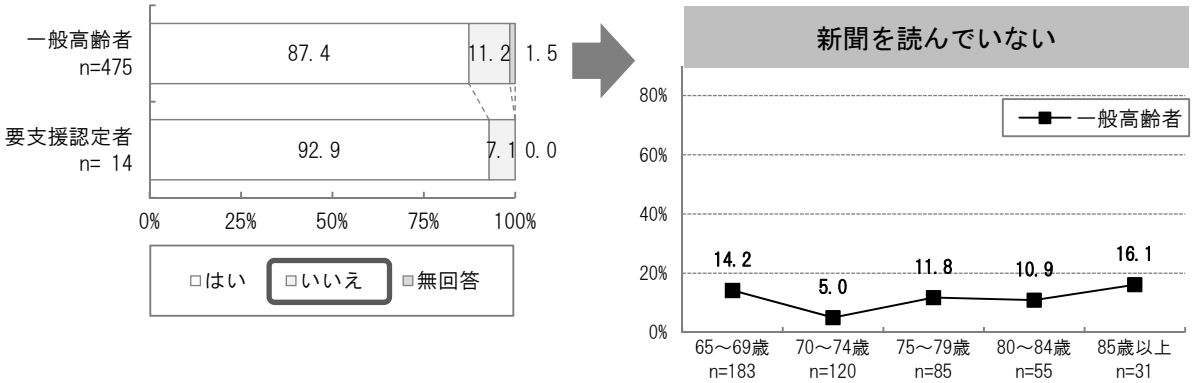


※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

○新聞を読んでいるかをみると、一般高齢者では 11.2%が読んでいないと回答しており、年齢階級別にみると、70～74 歳を除いた年齢階級で 10%台となっています。要支援認定者では 7.1%が読んでいないと回答しており、一般高齢者より 4.1ポイント高くなっています。

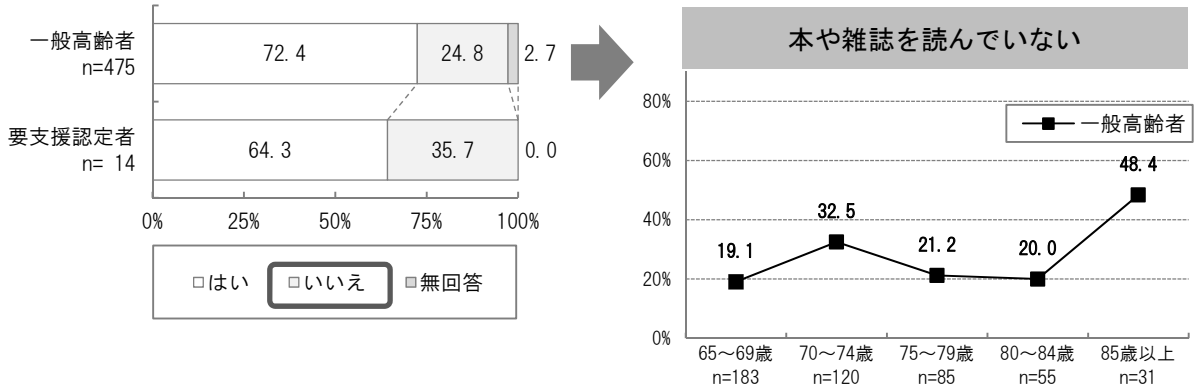
○本や雑誌を読んでいるかをみると、一般高齢者では 24.8%が読んでいないと回答しており、年齢階級別にみると 70～74 歳、85 歳以上で割合が高くなっています。
要支援認定者では 35.7%が読んでいないと回答しており、一般高齢者より 10.9ポイント高くなっています。

問4-(10)　新聞を読んでいるか



※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

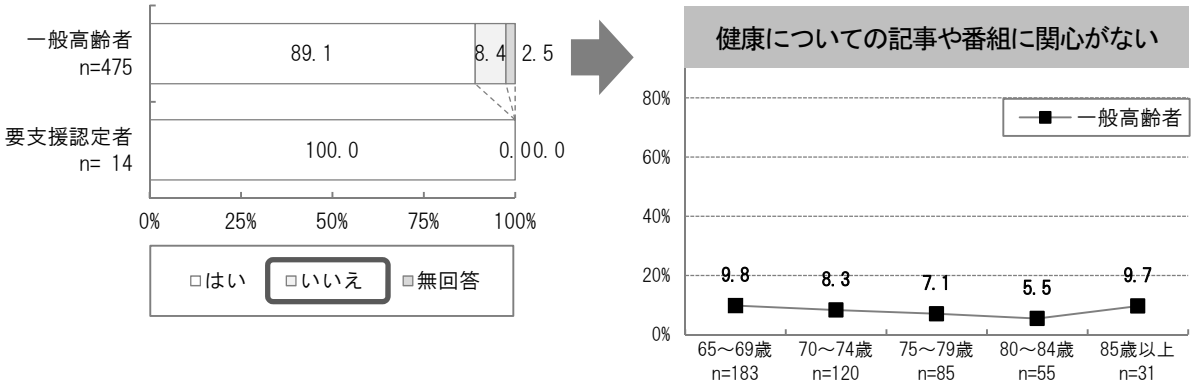
問4-(11)　本や雑誌を読んでいるか



※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

○健康についての記事や番組に関心があるかをみると、一般高齢者では 8.4%が関心がないと回答しており、全ての年齢階級において 10%未満でした。
要支援認定者では関心がないと回答した方はいません。

問4-(12)　健康についての記事や番組に関心がありますか

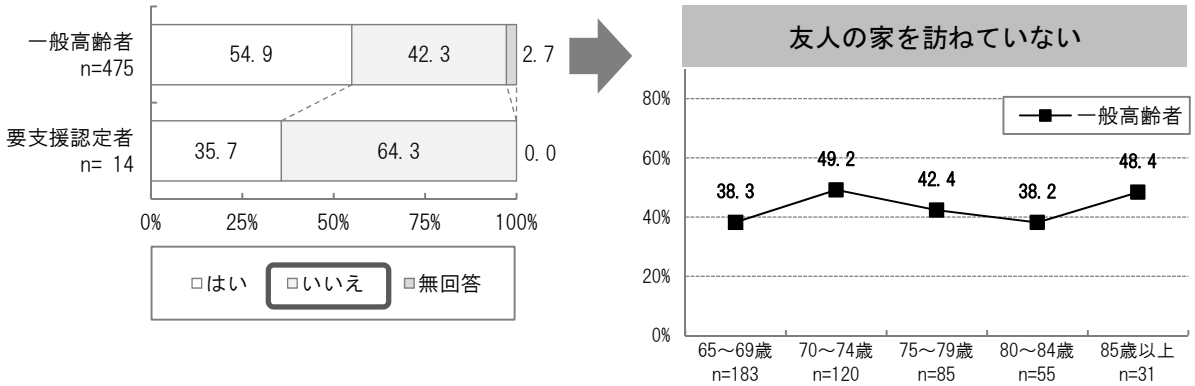


※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

（３）社会参加（社会的役割）の状況

○友人の家を訪ねているかをみると、一般高齢者では 42.3%が訪ねていないと回答しており、全ての年齢階級で 40%前後となっています。
要支援認定者では 64.3%が訪ねていないと回答しており、一般高齢者を 22.0ポイント高くなっています。

問4-(13)　友人の家を訪ねているか

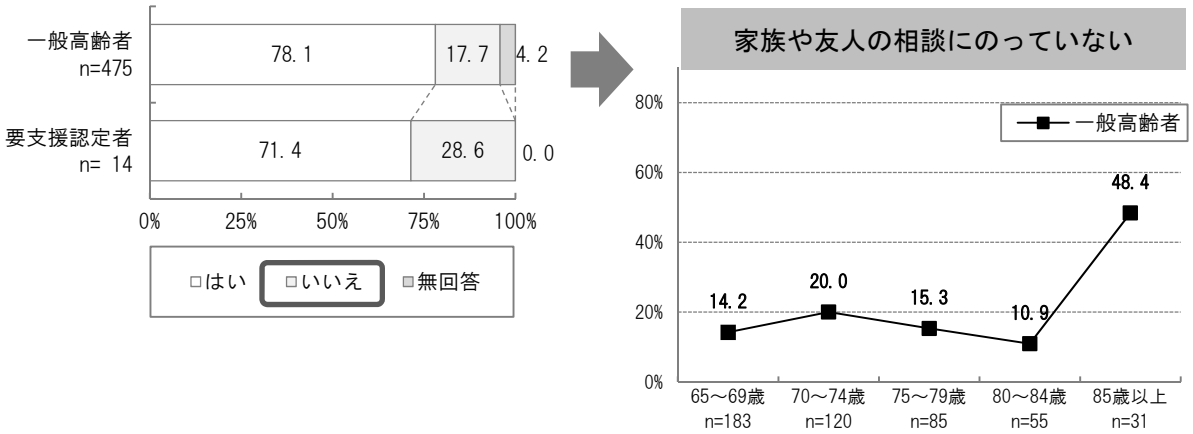


※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

○家族や友人の相談にのっているかをみると、一般高齢者では 17.7%が相談に乗っていないと回答しており、年齢階級別にみると 85 歳以上で割合が高くなっています。
要支援認定者では 28.6%が相談に乗っていないと回答しており、一般高齢者より 10.9ポイント高くなっています。

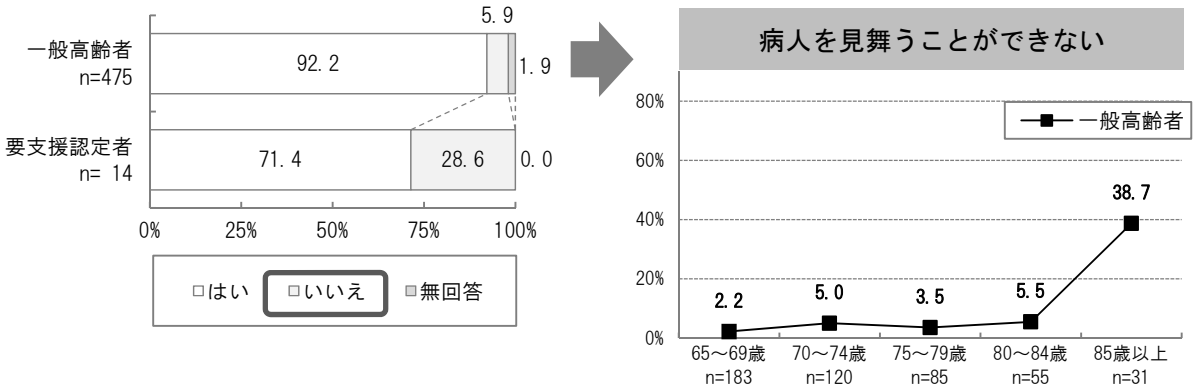
○病人を見舞うことができるかをみると、一般高齢者では 5.9%ができないと回答しており、年齢階級別にみると 85 歳以上で割合が高くなっています。
要支援認定者では 28.6%ができないと回答しており、一般高齢者より 22.7ポイント高くなっています。

問4-(14)　家族や友人の相談にのっているか



※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

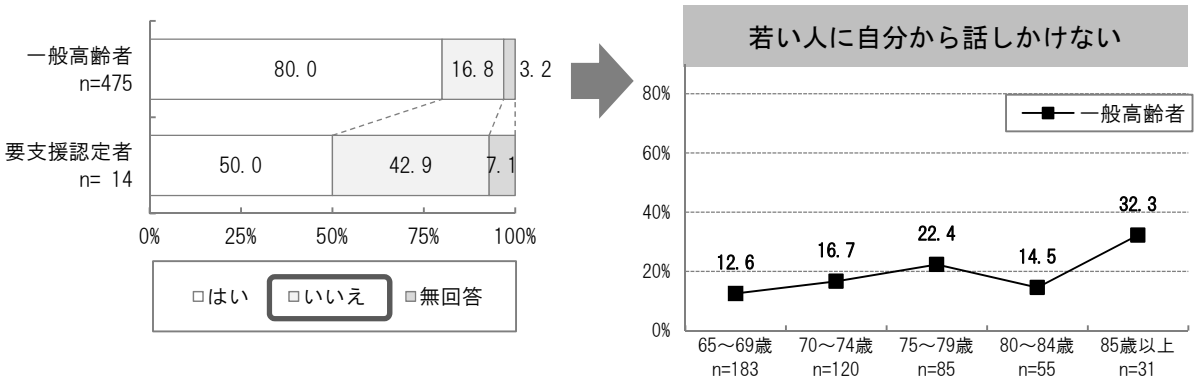
問4-(15)　病人を見舞うことができるか



※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

○若い人に自分から話しかけることはあるかをみると、一般高齢者では 16.8%が話しかけていないと回答しており、年齢階級別にみると 80～84 歳を除いて加齢とともに割合が高くなっています。
要支援認定者では 42.9%が話しかけていないと回答しており、一般高齢者より 26.1ポイント高くなっています。

問4-(16)　若い人に自分から話しかけることはあるか

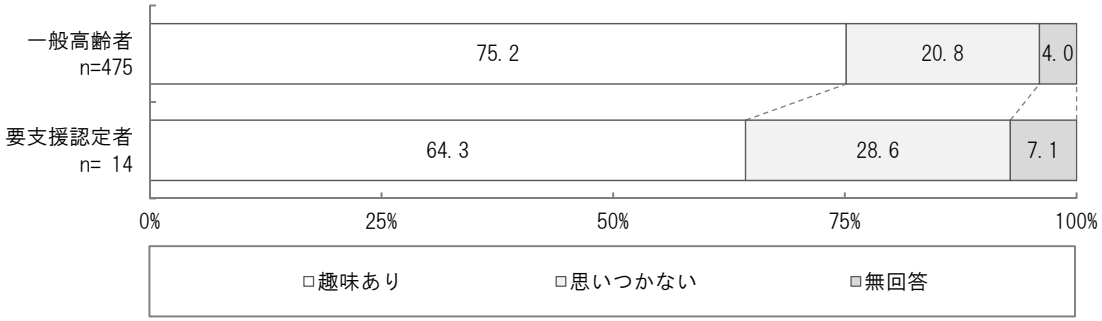


※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

（４）こころの健康状態

○趣味の有無をみると、一般高齢者では 75.2%、要支援認定者では 64.3%が趣味があると回答しており、一般高齢者が 10.9ポイント高くなっています。

問4-(17)　趣味はあるか

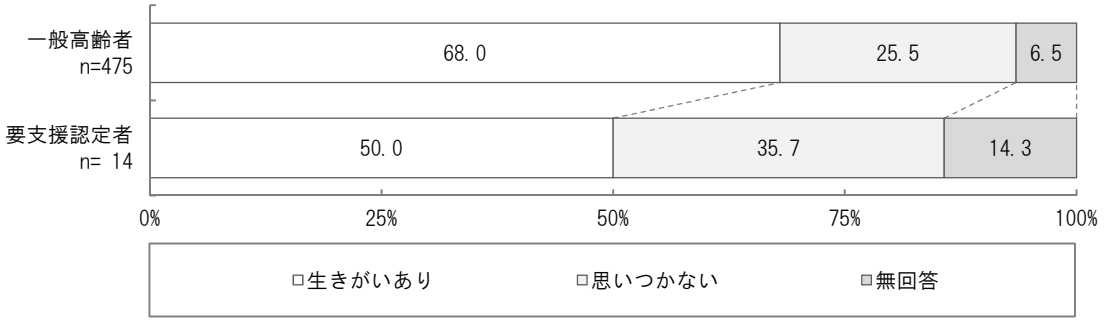


○生きがいはあるかをみると、一般高齢者では 68.0%、要支援認定者では 50.0%が生きがいがあると回答しており、一般高齢者が 18.0ポイント高くなっています。

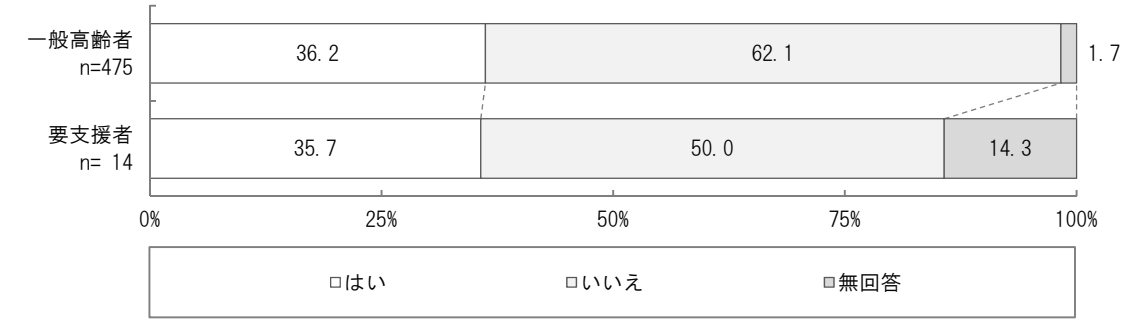
○この１か月間、気分が沈んだりするかをみると、一般高齢者では 36.2%、要支援認定者では 35.7%が沈んだりすることがあったと回答しており、一般高齢者が 0.5ポイント高くなっています。

○この１か月間、物事に対して心から楽しめないかをみると、一般高齢者では 18.5%、要支援認定者では 21.4%が楽しめないことがあったと回答しており、要支援認定者が 2.9ポイント高くなっています。

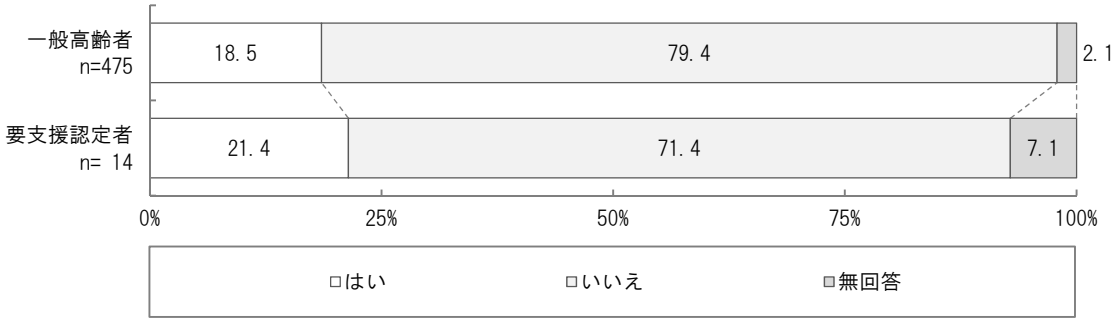
問4-(18)　生きがいはあるか



問7-(3)　この１か月間、気分が沈んだりするか

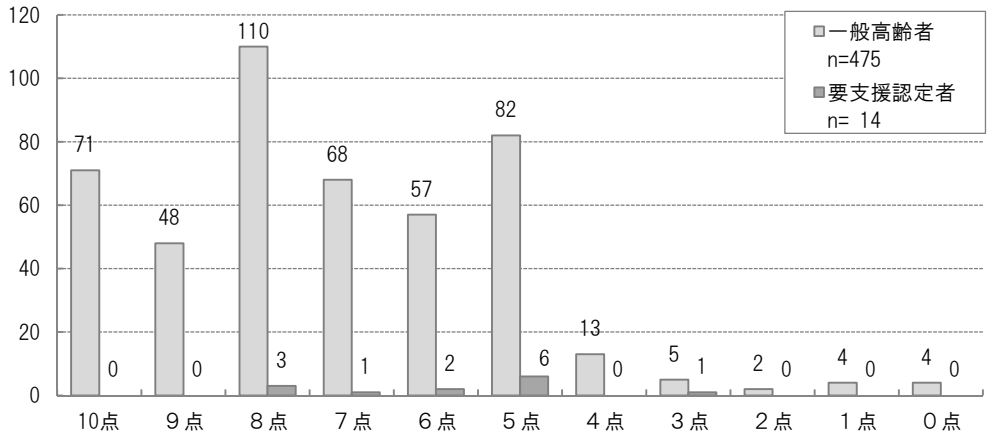


問7-(4)　この１か月間、物事に対して心から楽しめないか



○現在の主観的幸福感をみると、一般高齢者では「８点」（23.2%）が最も多く、次いで「５点」（17.3%）、「（とても幸せ）10 点」（14.9%）、「７点」（14.3%）の順、平均点は 7.2 点となっています。
要支援認定者では、「５点」（42.9%）が最も多く、次いで「８点」（21.4%）、「６点」（14.3%）の順、平均点は 5.8 点となり、一般高齢者より 1.4 点低くなっています。

問7-(2)　現在どの程度幸せですか



一般高齢者	14.9%	10.1%	23.2%	14.3%	12.0%	17.3%	2.7%	1.1%	0.4%	0.8%	0.8%
要支援認定者	0.0%	0.0%	21.4%	7.1%	14.3%	42.9%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%

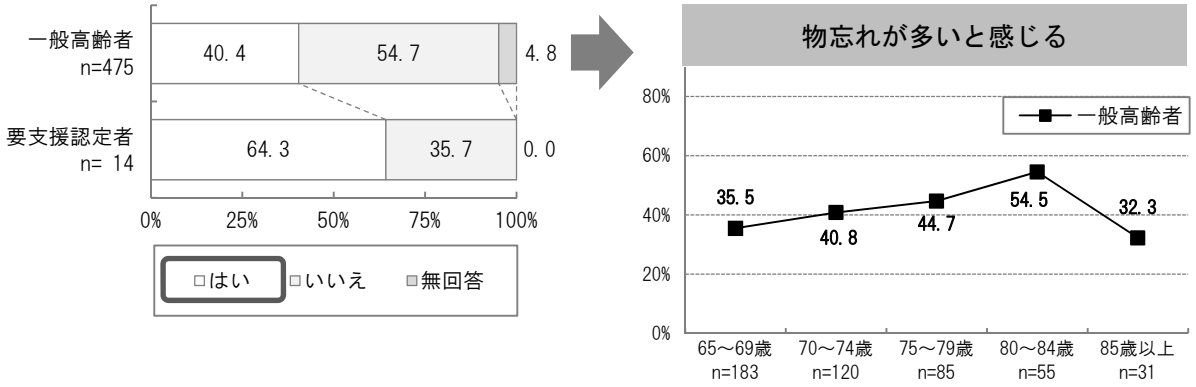
平均点数	
一般高齢者	7.2 点
要支援認定者	5.8 点

（５）物忘れの状況

○物忘れが多いと感じるかをみると、一般高齢者では 40.4%が多いと回答しており、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなり、85 歳以上で大きく割合が減少しています。要支援認定者では 64.3%が多いと回答しており、一般高齢者より 23.9ポイント高くなっています。

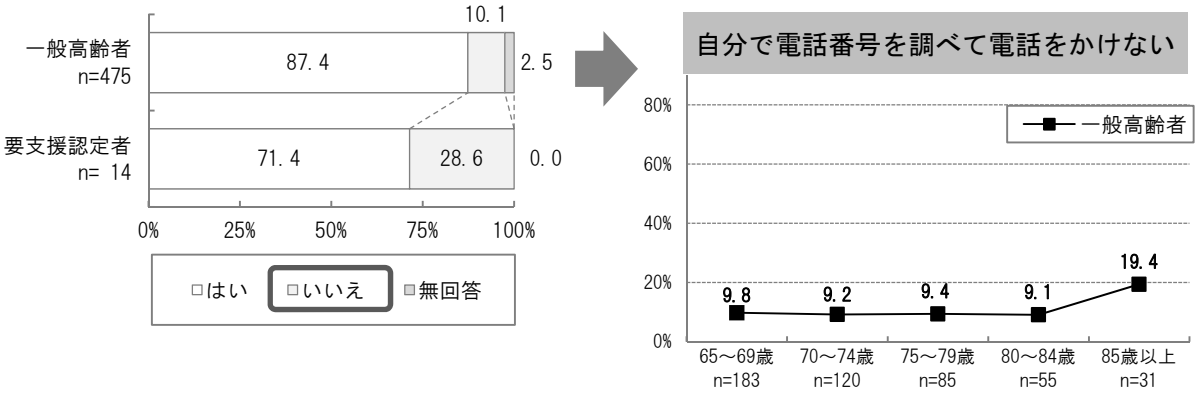
○自分で電話番号を調べて電話をかけるかをみると、一般高齢者では 10.1%がかけないと回答しており、年齢階級別にみると 85 歳以上で割合が高くなっています。
要支援認定者では 28.6%がかけないと回答しており、一般高齢者より 23.9ポイント高くなっています。

問4-(1)　物忘れが多いと感じるか



※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

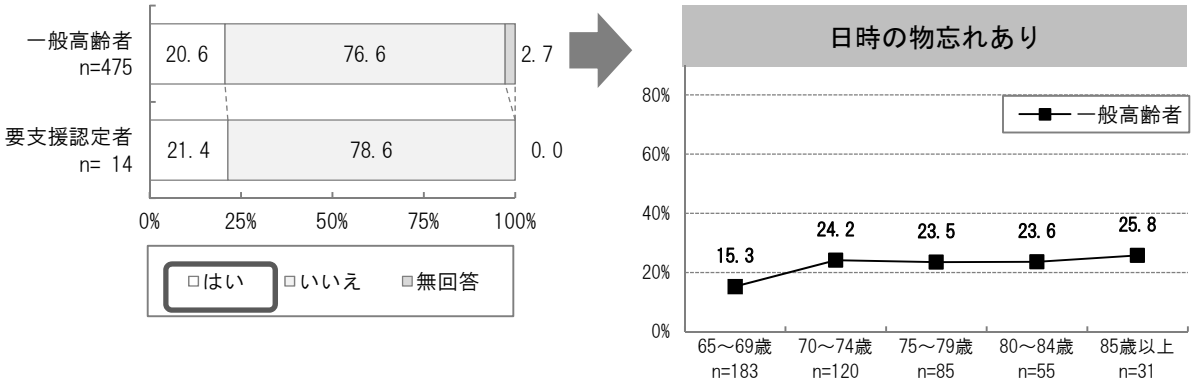
問4-(2)　自分で電話番号を調べて、電話をかけるか



※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

○今日が何月何日かわからない時があるかをみると、一般高齢者では 20.6%がわからない時があると回答しており、年齢階級別にみると 70 歳以上で 20%台となっています。要支援認定者では 21.4%がわからない時があると回答しており、一般高齢者より 0.8ポイント高くなっています。

問4-(3)　今日が何月何日かわからない時があるか



※要支援認定者は少人数のため、年齢階級別グラフは省略します。

5　地域での活動について

（１）グループ活動等の状況

○グループ等への参加頻度について週１回以上の参加状況をみると、一般高齢者では「⑦収入のある仕事」（24.6%）、「②スポーツ関係のグループやクラブ」（16.2%）、「③趣味関係のグループ」（14.1%）の順となっています。
要支援認定者では「②スポーツ関係のグループやクラブ」（7.1%）のみとなっています。

問5-(1)　グループ等への参加頻度

一般高齢者　n=475	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
①ボランティアのグループ	0.8%	0.8%	1.7%	7.4%	4.4%	57.5%	27.4%
②スポーツ関係のグループやクラブ	3.8%	8.0%	4.4%	5.3%	3.4%	51.2%	24.0%
③趣味関係のグループ	1.9%	5.9%	6.3%	13.5%	6.5%	45.7%	20.2%
④学習・教養サークル	0.4%	0.8%	2.3%	3.2%	4.8%	59.2%	29.3%
⑤老人クラブ	0.2%	0.8%	1.3%	3.6%	8.2%	60.0%	25.9%
⑥町内会・自治会	0.2%	0.6%	0.6%	6.7%	20.6%	45.5%	25.7%
⑦収入のある仕事	16.8%	6.3%	1.5%	1.5%	2.1%	48.4%	23.4%

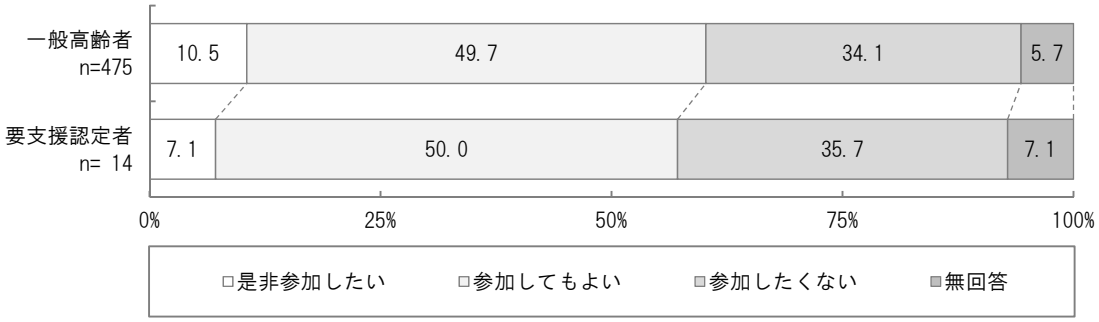
要支援者　n=14	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
①ボランティアのグループ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	71.4%	28.6%
②スポーツ関係のグループやクラブ	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	64.3%	28.6%
③趣味関係のグループ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	57.1%	28.6%
④学習・教養サークル	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	71.4%	28.6%
⑤老人クラブ	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	21.4%	50.0%	21.4%
⑥町内会・自治会	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	35.7%	35.7%	28.6%
⑦収入のある仕事	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	64.3%	35.7%

（２）地域づくりに対する参加意向

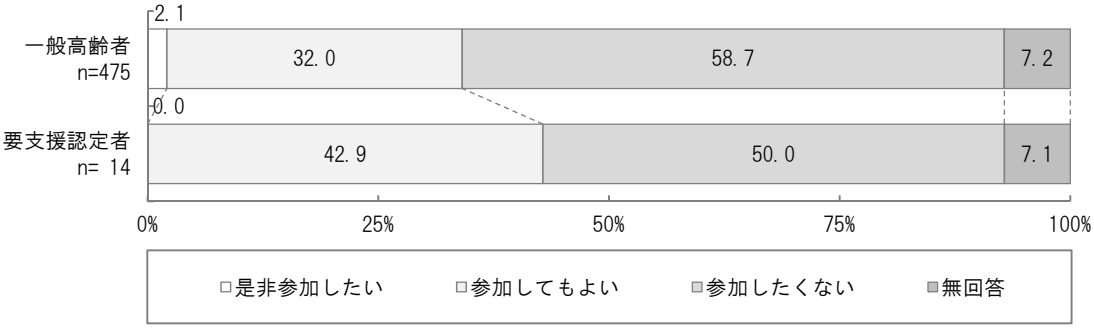
○参加者としてグループ活動等に参加してみたいかをみると、一般高齢者では「是非参加したい」（10.5%）と「参加してもよい」（49.7%）を合わせると 60.2%が参加意向ありとなっています。
要支援認定者では「是非参加したい」（7.1%）と「参加してもよい」（50.0%）を合わせると 57.1%が参加意向ありとなっており、一般高齢者より 3.1ポイント低くなっています。

○企画・運営（世話役）としてグループ活動等に参加してみたいかをみると、一般高齢者では「是非参加したい」（2.1%）と「参加してもよい」（32.0%）を合わせると 34.1%が参加意向ありとなっています。
要支援認定者では「是非参加したい」（0.0%）と「参加してもよい」（42.9%）を合わせると 42.9%となっており、一般高齢者より 8.8ポイント高くなっています。

問5-(2)　参加者としてグループ活動等に参加してみたいか



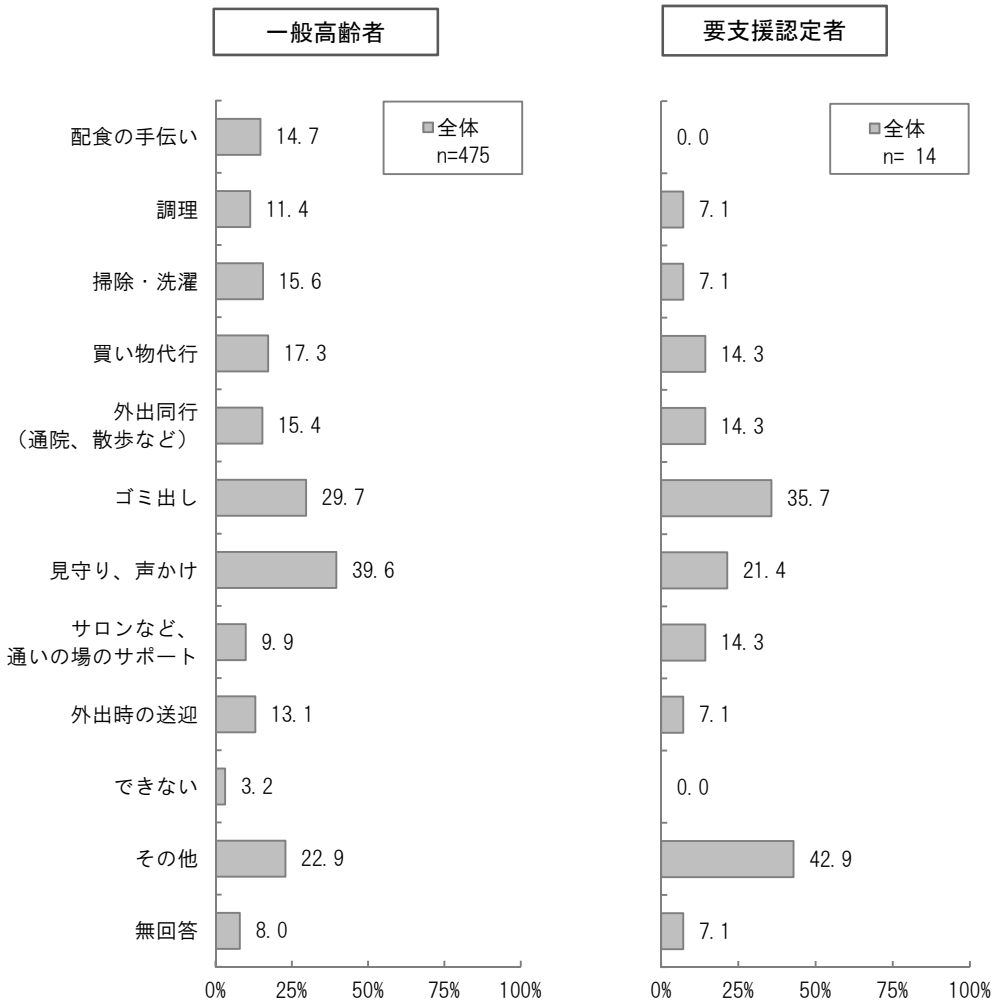
問5-(3)　企画・運営（世話役）としてグループ活動等に参加してみたいか



（３）地域住民が生活支援サービスとして支援できるもの

○自身が地域でできると思う支援をみると、一般高齢者では「見守り・声かけ」（39.6%）が最も多く、次いで「ゴミ出し」（29.7%）、「買い物代行」（17.3%）、「掃除・洗濯」（15.6%）、「外出同行（通院、散歩など）」（15.4%）、「配食の手伝い」（14.7%）、「外出時の送迎」（13.1%）、「調理」（11.4%）の順となっています。一方「できない」は3.2%でした。要支援認定者では「ゴミ出し」（35.7%）が最も多く、次いで「見守り、声かけ」（21.4%）、「買い物代行」「外出同行（通院、散歩など）」「サロンなど、通いの場のサポート」（各14.3%）となっています。

問5-(4)　自身が地域でできると思う支援



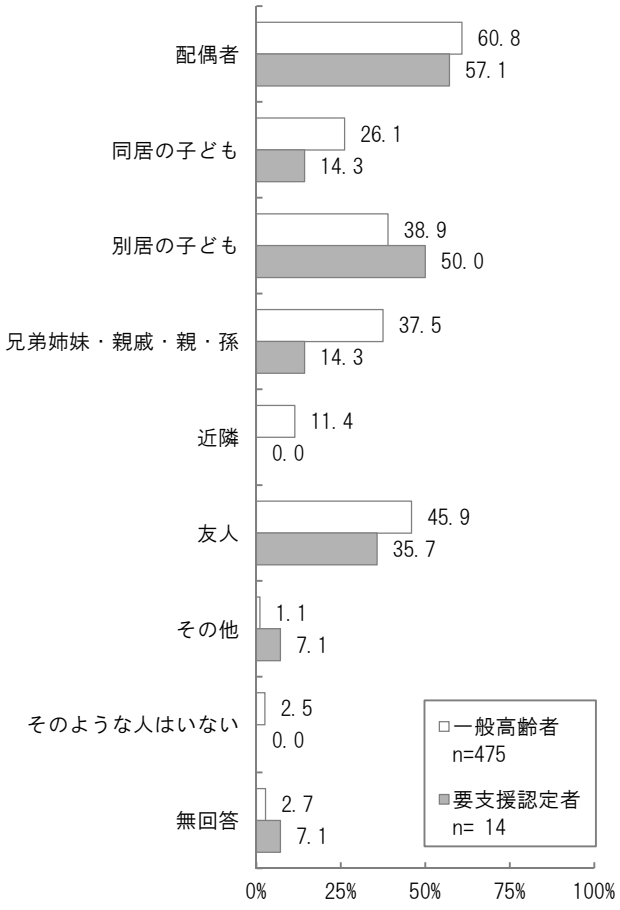
６　たすけあいについて

（１）困った際に頼る相手または頼られる相手

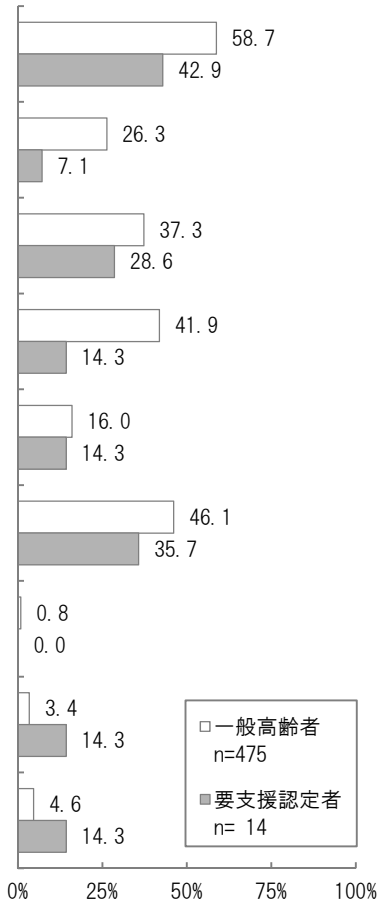
○心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人をみると、一般高齢者では「配偶者」（60.8%）が最も多く、次いで「友人」（45.9%）、「別居の子ども」（38.9%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（37.5%）、「同居の子ども」（26.1%）、「近隣」（11.4%）の順となっており、「そのような人はいない」は 2.5%でした。
要支援認定者では「配偶者」（57.1%）が最も多く、次いで「別居の子ども」（50.0%）、「友人」（35.7%）、「同居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（各 14.3%）の順となっています。

○心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人をみると、一般高齢者では「配偶者」（58.7%）が最も多く、次いで「友人」（46.1%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（41.9%）、「別居の子ども」（37.3%）、「同居の子ども」（26.3%）、「近隣」（16.0%）の順となっています。
要支援認定者では「配偶者」（42.9%）が最も多く、次いで「友人」（35.7%）、「別居の子ども」（28.6%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」「近隣」「そのような人はいない」（各 14.3%）の順となっています。

問6-(1)　心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人



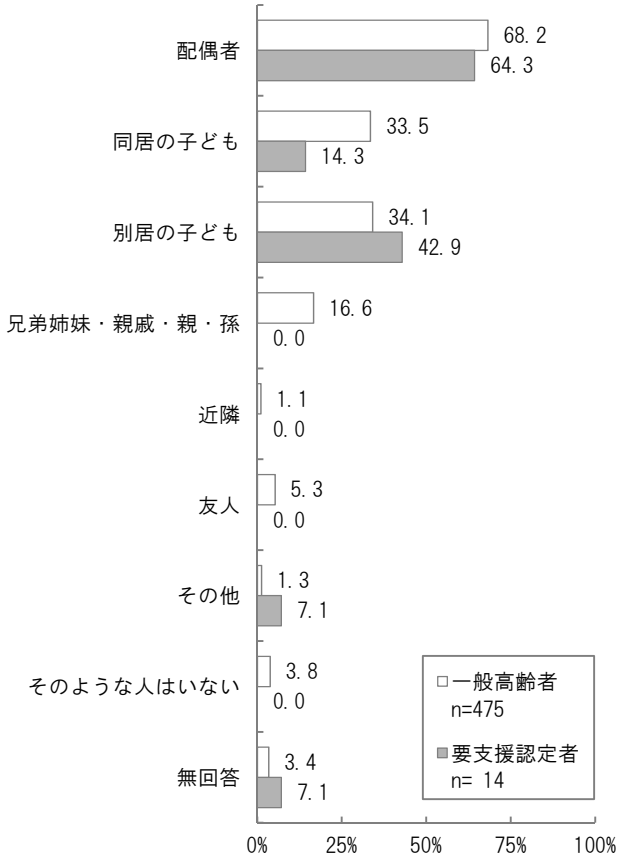
問6-(2)　心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人



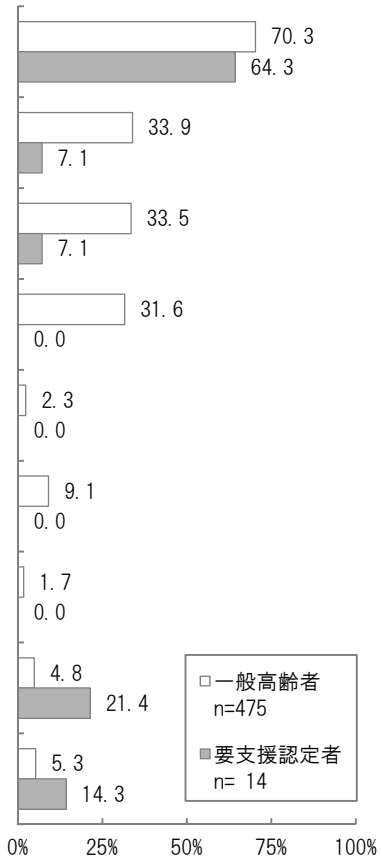
○病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人をみると、一般高齢者では「配偶者」（68.2%）が最も多く、次いで「別居の子ども」（34.1%）、「同居の子ども」（33.5%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（16.6%）の順となっており、「そのような人はいない」は3.8%でした。
要支援認定者では「配偶者」（64.3%）が最も多く、次いで、「別居の子ども」（42.9%）、「同居の子ども」（14.3%）の順となっています。

○看病や世話をしてあげる人を見ると、一般高齢者では「配偶者」（70.3%）が最も多く、次いで「同居の子ども」（33.9%）、「別居の子ども」（33.5%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（31.6%）の順となっており、「そのような人はいない」は4.8%でした。
要支援認定者では「配偶者」（64.3%）が最も多く、次いで「そのような人はいない」（21.4%）となっています。

問6-(3)　病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人

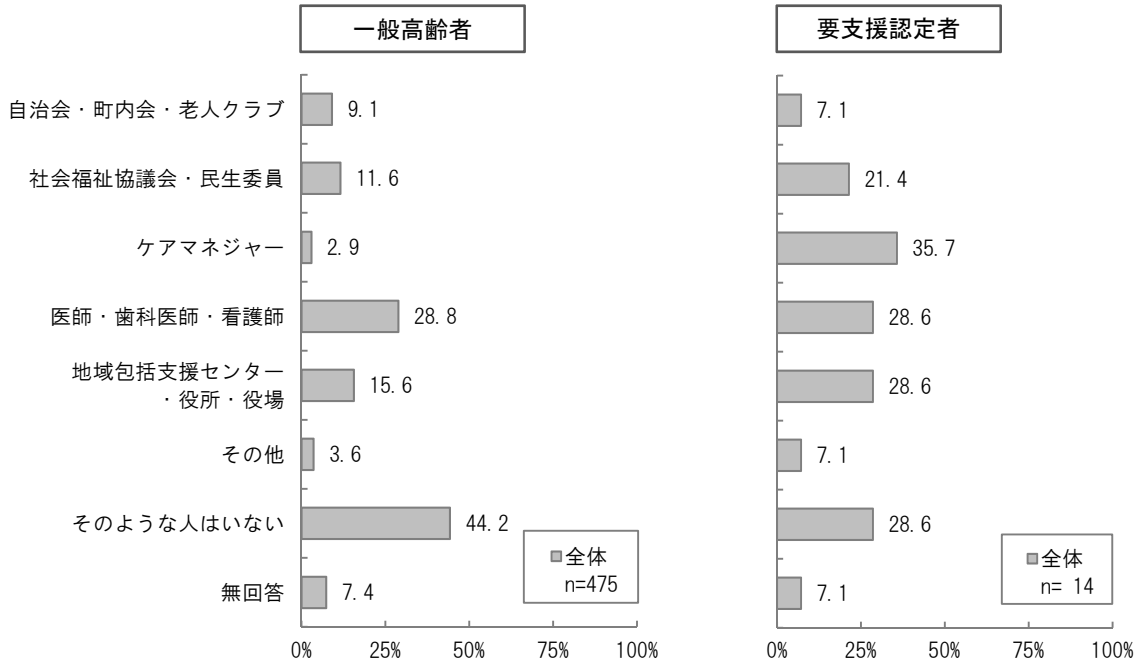


問6-(4)　看病や世話をしてあげる人



○家族や友人･知人以外で何かあったときに相談する相手をみると、一般高齢者では「医師・歯科医師・看護師」（28.8%）、「地域包括支援センター・役所・役場」（15.6%）、「社会福祉協議会・民生委員」（11.6%）の順となっています。また、「そのような人はいない」は 44.2%と最も多くなっています。
要支援認定者では「ケアマネジャー」（35.7%）が最も多く、次いで「医師・歯科医師・看護師」「地域包括支援センター・役所・役場」（各 28.6%）、「社会福祉協議会・民生委員」（21.4%）の順となっています。また、「そのような人はいない」は 28.6%でした。

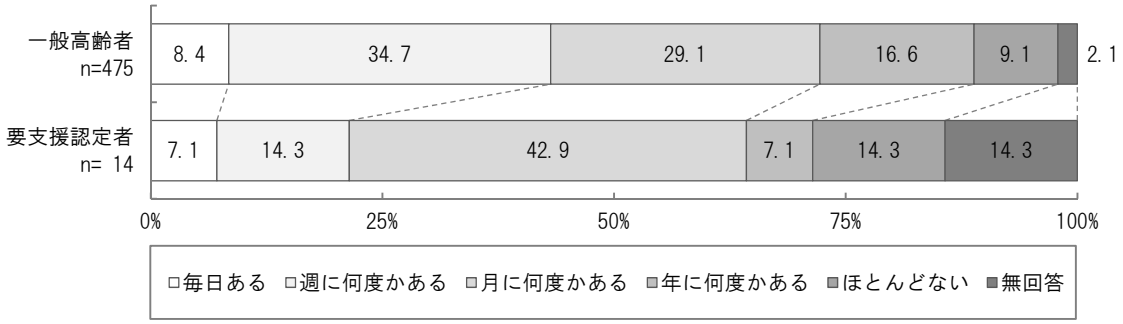
問6-(5)　家族や友人･知人以外で何かあったときに相談する相手



（２）友人・知人との交流状況

○友人・知人と会う頻度をみると、一般高齢者では「週に何度かある」（34.7%）が最も多く、次いで「月に何度かある」（29.1%）、「年に何度かある」（16.6%）となっています。
要支援認定者では「月に何度かある」（42.9%）が最も多く、次いで「週に何度かある」「ほとんどない」（各 14.3%）となっています。

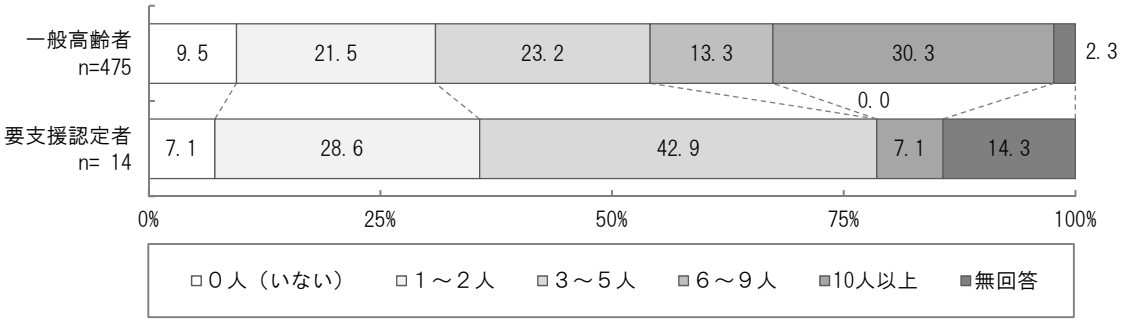
問6-(6)　友人・知人と会う頻度



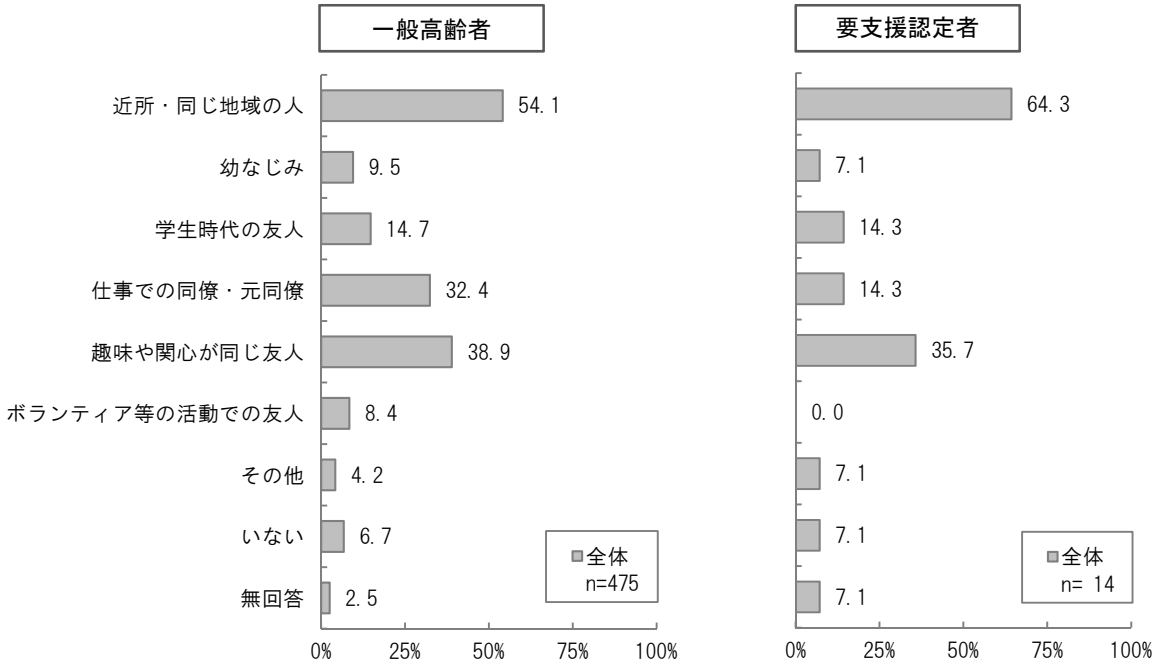
○１か月間に何人の友人・知人と会ったかをみると、一般高齢者では「10 人以上」（30.3%）が最も多く、次いで「３～５人」（23.2%）、「１～２人」（21.5%）、「６～９人」（13.3%）の順となっています。
要支援認定者では「３～５人」（42.9%）が最も多く、次いで「１～２人」（28.6%）、「０人」「10 人以上」（各 7.1%）の順となっています。

○よく会う友人・知人はどんな関係の人かをみると、一般高齢者では「近所・同じ地域の人」（54.1%）が最も多く、次いで「趣味や関心が同じ友人」（38.9%）、「仕事での同僚・元同僚」（32.4%）、「学生時代の友人」（14.7%）の順となっています。
要支援認定者では「近所・同じ地域の人」（64.3%）が最も多く、次いで「趣味や関心が同じ友人」（35.7%）、「学生時代の友人」「仕事での同僚・元同僚」（各 14.3%）の順となっています。

問6-(7)　何人の友人・知人と会ったか（最近１か月間）



問6-(8)　よく会う友人・知人はどんな関係の人か

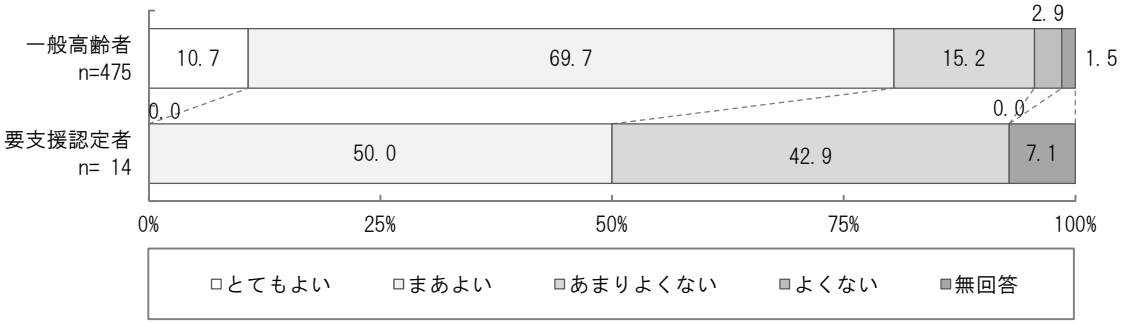


7　健康について

（１）健康状態

○調査対象者の現在の主観的健康感をみると、一般高齢者では「まあよい」（69.7%）が最も多く、「とてもよい」（10.7%）を合わせると 80.4%が健康と感じています。
要支援認定者では 50.0%が健康と感じており、一般高齢者より 30.4ポイント低くなっています。

問7-(1)　現在の健康状態はいかがですか

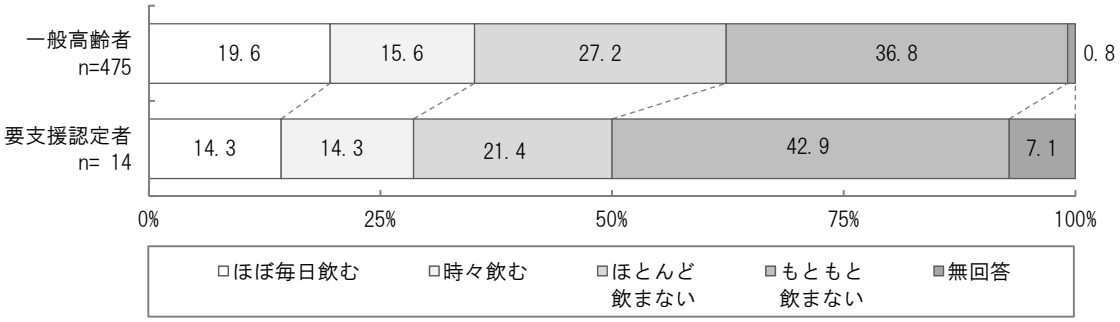


（２）飲酒や喫煙と疾病との関係

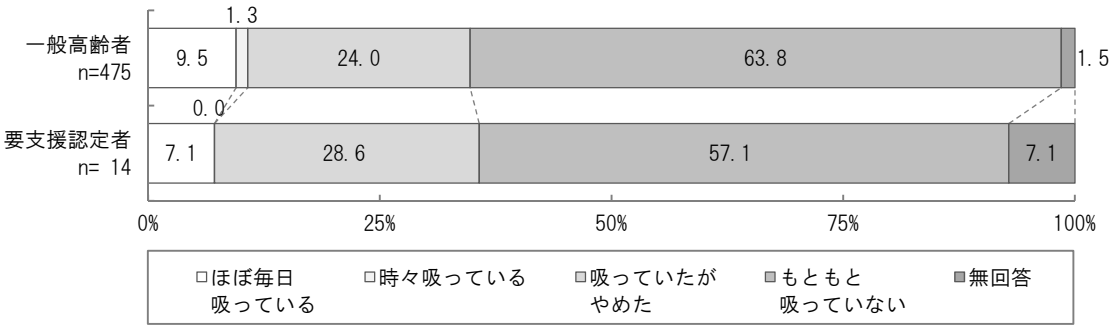
○飲酒の有無をみると、一般高齢者では「ほぼ毎日飲む」（19.6%）と「時々飲む」（15.6%）を合わせると 35.2%が飲酒者となります。
要支援認定者では「ほぼ毎日飲む」（14.3%）と「時々飲む」（14.3%）を合わせると 28.6%が飲酒者となり、一般高齢者より 6.6ポイント低くなっています。

○喫煙の有無をみると、一般高齢者では「ほぼ毎日吸っている」（9.5%）と「時々吸っている」（1.3%）を合わせると 10.8%が喫煙者となります。
要支援認定者では「ほぼ毎日吸っている」と回答した 7.1%が喫煙者であり、一般高齢者より 3.7ポイント低くなっています。

問7-(5)　飲酒の有無



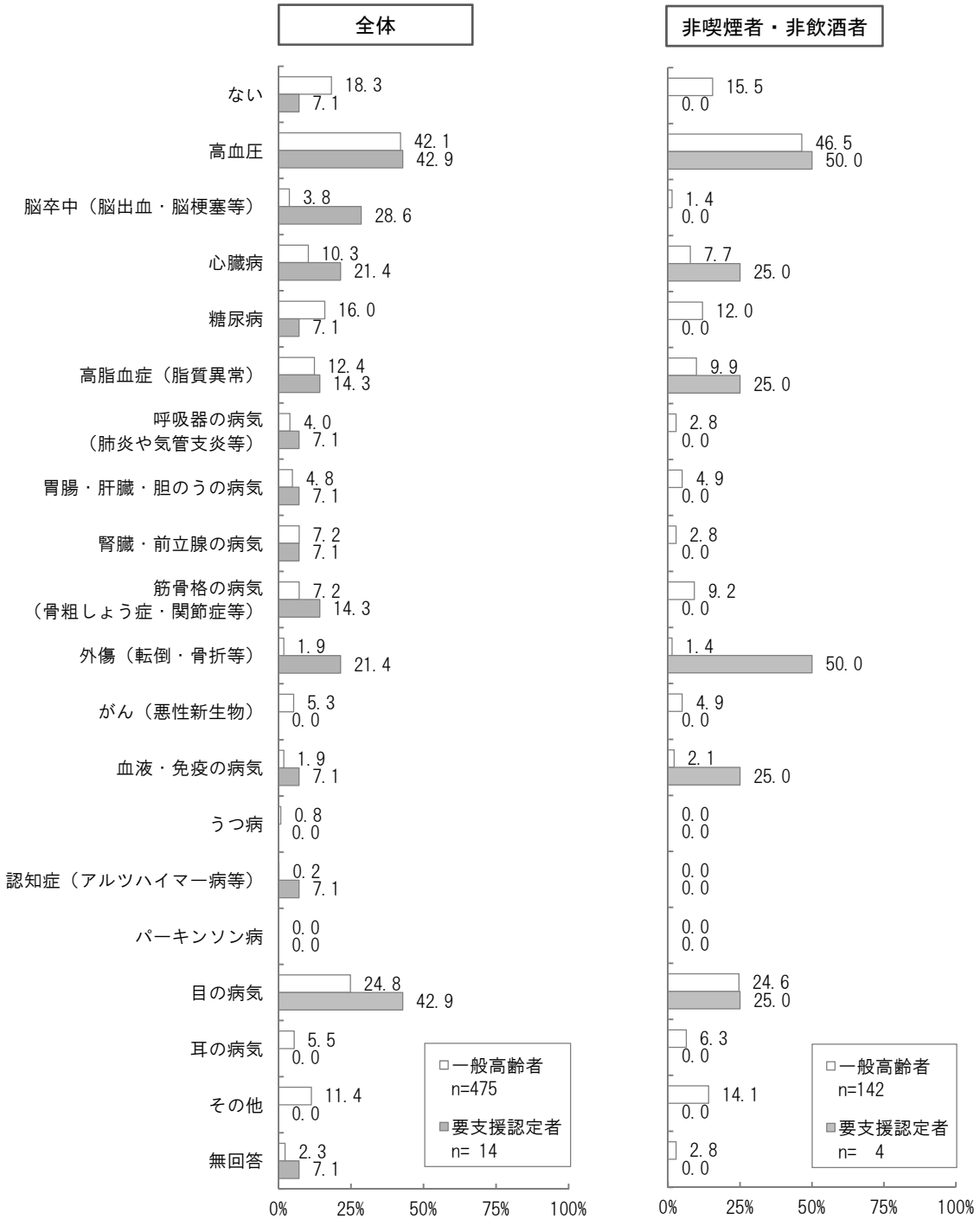
問7-(6)　喫煙の有無



○現在治療中、または後遺症のある病気をみると、一般高齢者では「高血圧」（42.1%）が最も多く、次いで「目の病気」（24.8%）、「糖尿病」（16.0%）の順となっており、「ない」は 18.3%でした。
要支援認定者は「高血圧」「目の病気」（各 42.9%）が最も多く、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」（28.6%）となっています。また、「ない」は 7.1%でした。

○非喫煙者・非飲酒者の病気の有無をみると、一般高齢者では「高血圧」（46.5%）が最も多く、次いで「目の病気」（24.6%）、「高脂血症（脂質異常）」（9.9%）の順となっており、「ない」が 15.5%います。
※要支援認定者は対象者が少人数のため分析できません。

問7-(7)　現在治療中、または後遺症のある病気



ここからは一般高齢者・要支援認定者に関わらず集計しています。

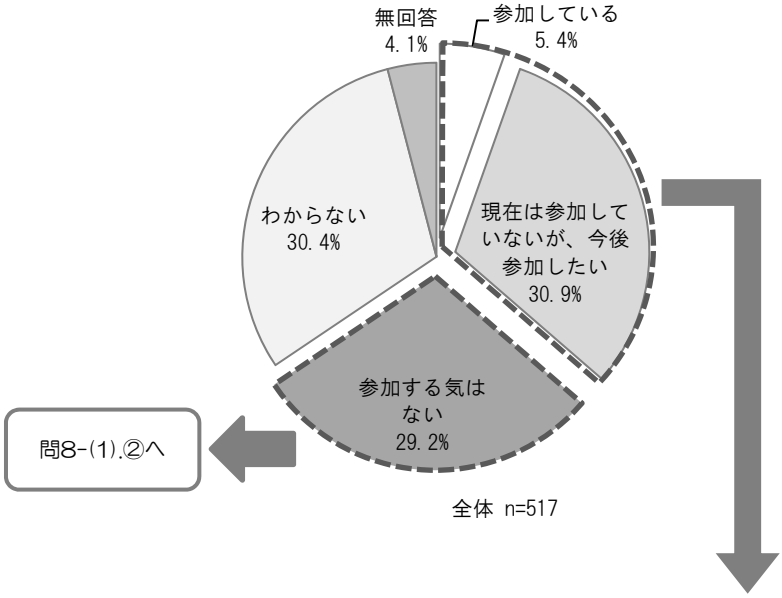
8　介護予防（要介護状態にならないための予防）について

（1）介護予防教室への参加意向

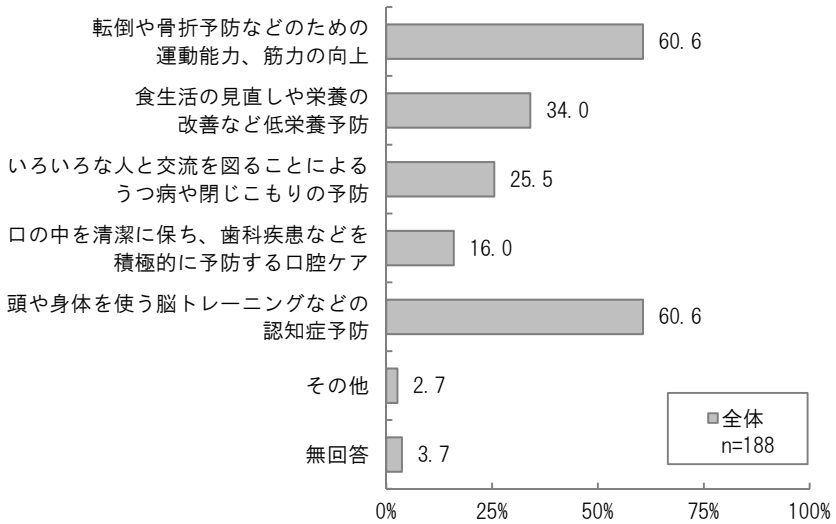
○介護予防教室への参加意向をみると、「参加している」（5.4%）と「現在は参加していないが、今後参加したい」（30.9%）を合わせると 36.3%が参加してみたいと回答しています。また、「参加する気はない」が 29.2%います。

○参加したいと思う介護予防事業をみると、「転倒や骨折予防などのための運動能力、筋力の向上」「頭や身体を使う脳トレーニングなどの認知症予防」（各 60.6%）が最も多く、次いで「食生活の見直しや栄養の改善など低栄養予防」（34.0%）、「いろいろな人と交流を図ることによるうつ病や閉じこもりの予防」（25.5%）、「口の中を清潔に保ち、歯科疾患などを積極的に予防する口腔ケア」（16.0%）の順となっています。

問8-(1)　介護予防教室への参加意向

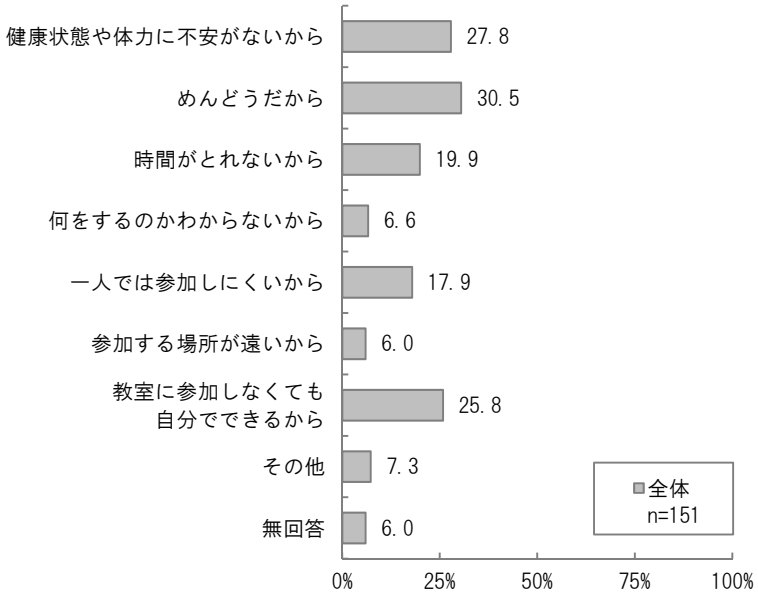


問8-(1).①　参加したいと思う介護予防事業



○介護予防教室への参加意向がない理由をみると、「めんどうだから」（30.5%）が最も多く、次いで「健康状態や体力に不安がないから」（27.8%）、「教室に参加しなくても自分でできるから」（25.8%）、「時間がとれないから」（19.9%）、「一人では参加しにくいから」（17.9%）の順となっています。

問8-(1).②　介護予防教室への参加意向がない理由



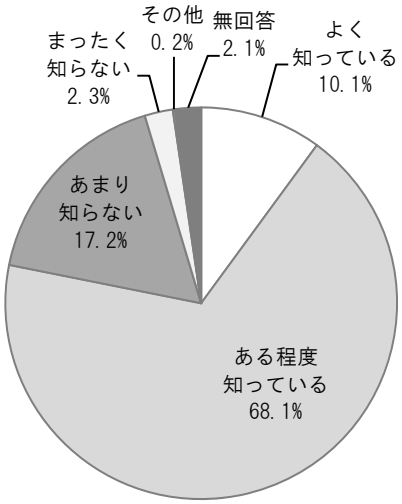
９　認知症について

（１）認知症に関する知識や心配事

○認知症についての周知状況をみると、「ある程度知っている」（68.1％）が最も多く、次いで「あまり知らない」（17.2％）、「よく知っている」（10.1％）の順となっており、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせると概ね８割弱の方が知っていると回答しています。

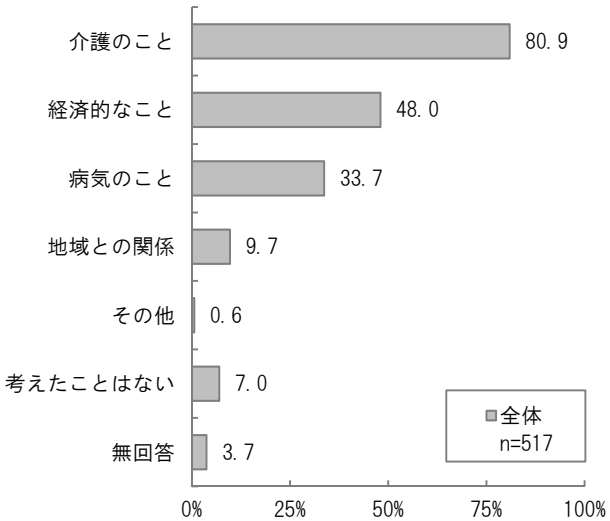
○あなた自身や家族が認知症になった時に心配なことをみると、「介護のこと」（80.9％）が最も多く、次いで「経済的なこと」（48.0％）、「病気のこと」（33.7％）の順となっています。

問9-(1)　認知症についての周知状況



全体 n=517

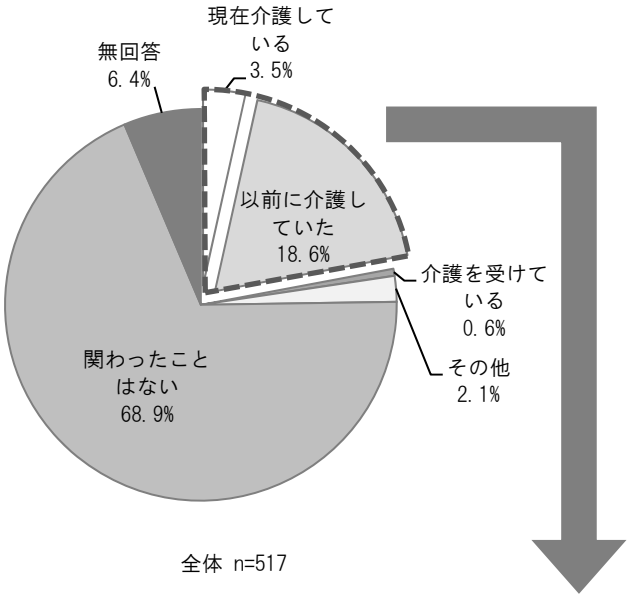
問9-(2)　あなた自身や家族が認知症になった時に心配なこと



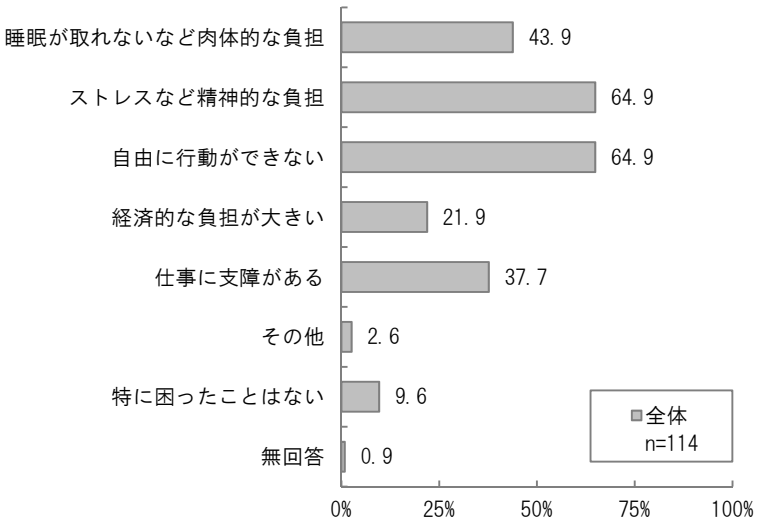
○認知症高齢者の介護経験をみると、「現在介護している」（3.5%）と「以前に介護していた」（18.6%）を合わせた 22.1%が経験ありと回答しています。

○認知症高齢者を介護する上で、困ったことをみると、「ストレスなど精神的な負担」「自由に行動ができない」（各 64.9%）、「睡眠が取れないなど肉体的な負担」（43.9%）、「仕事に支障がある」（37.7%）、「経済的な負担が大きい」（21.9%）の順となっています。また、「特に困ったことはない」は 9.6%でした。

問9-(3)　認知症高齢者の介護経験

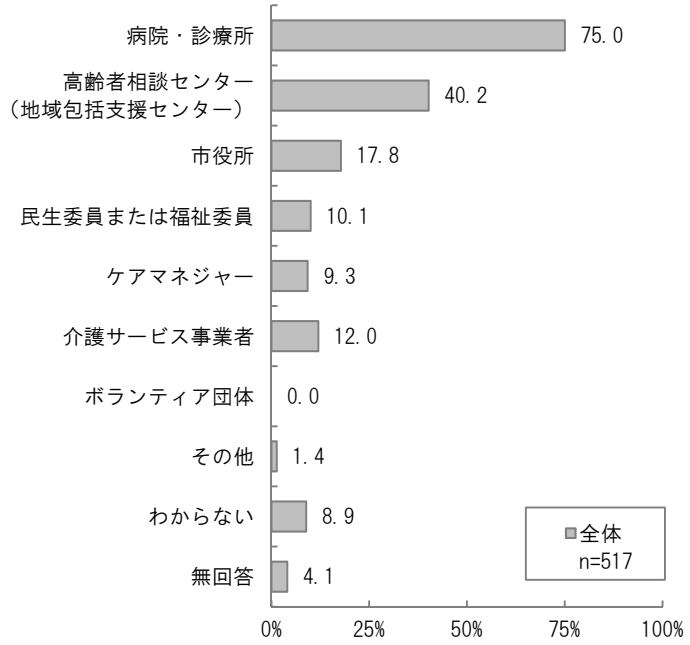


問9-(3).①　認知症高齢者を介護する上で、困ったこと



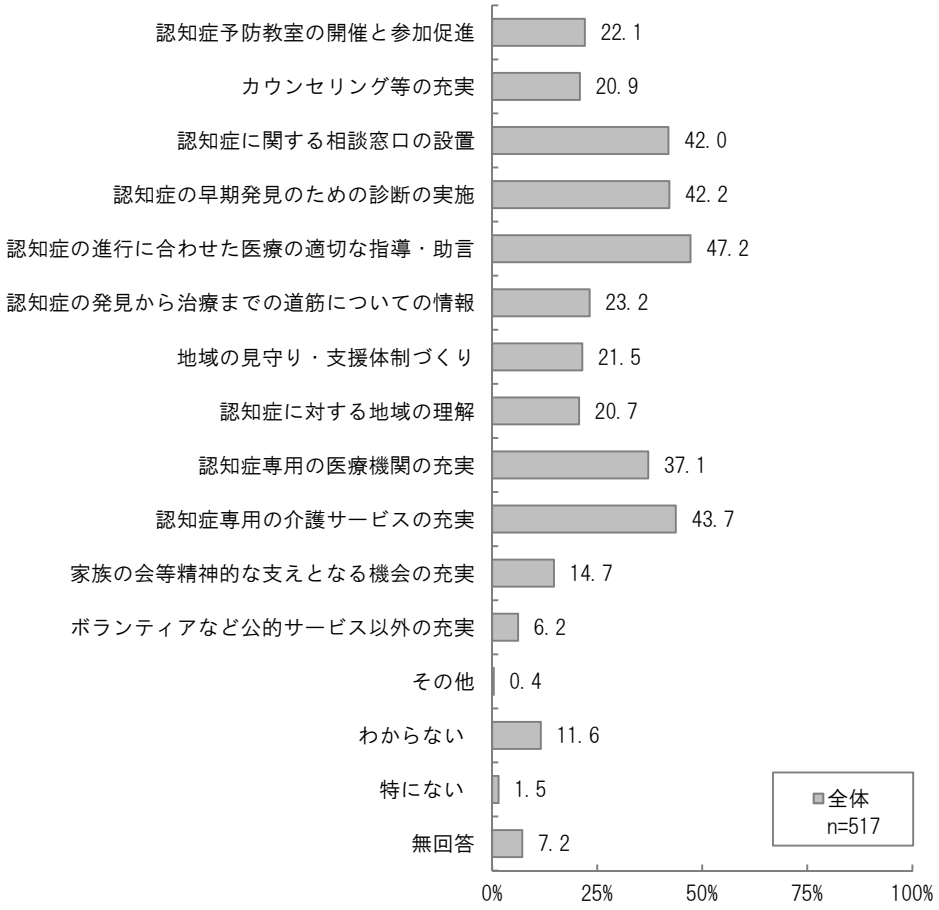
○あなた自身や身近な人に認知症の疑いがある時の相談先をみると、「病院・診療所」（75.0%）が最も多く、次いで「高齢者相談センター（地域包括支援センター）」（40.2%）、「市役所」（17.8%）、「介護サービス事業者」（12.0%）、「民生委員または福祉委員」（10.1%）の順となっています。

問9-(4)　あなた自身や身近な人に認知症の疑いがある時の相談先



○認知症高齢者に対する支援として必要なことをみると、「認知症の進行に合わせた医療の適切な指導・助言」（47.2%）が最も多く、次いで「認知症専用の介護サービスの充実」（43.7%）、「認知症の早期発見のための診断の実施」（42.2%）、「認知症に関する相談窓口の設置」（42.0%）、「認知症専用の介護サービスの充実」（37.1%）の順となっています。

問9-(5)　認知症高齢者に対する支援として必要なこと



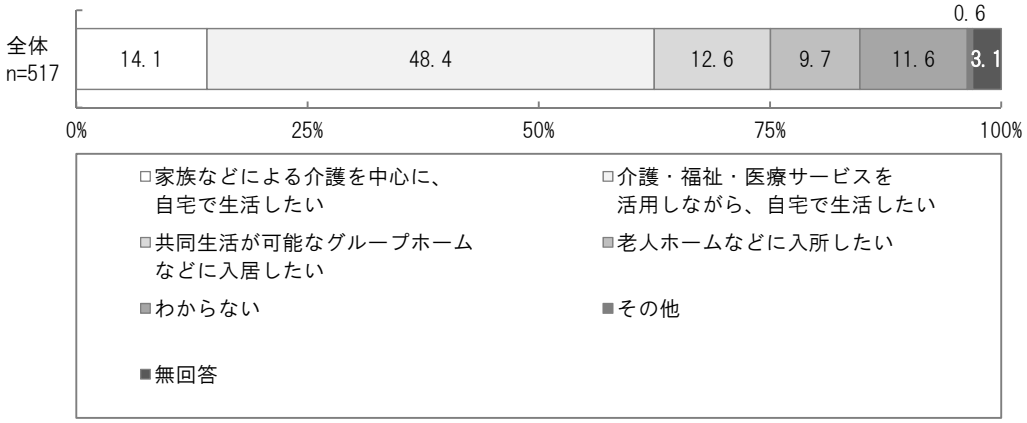
10　介護について

（１）介護に対する考え

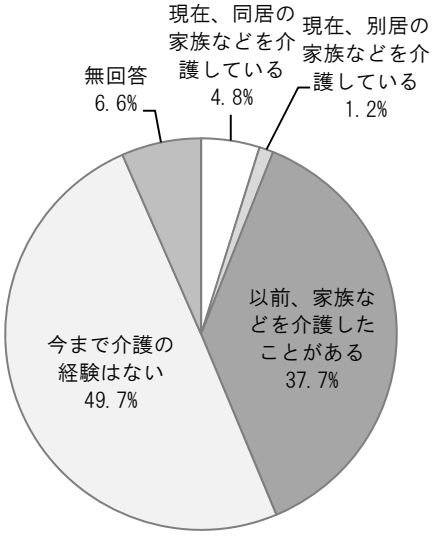
○介護が必要となった場合の意向をみると、「介護・福祉・医療サービスを活用しながら、自宅で生活したい」（48.4%）が最も多く、次いで「家族などによる介護を中心に、自宅で生活したい」（14.1%）、「共同生活が可能なグループホームなどに入居したい」（12.6%）の順となっています。また、「わからない」と回答した方は 11.6%でした。

○介護経験の有無をみると、「今まで介護の経験はない」（49.7%）が最も多く、次いで「以前、家族などを介護したことがある」（37.7%）となっています。

問10-(1)　介護が必要となった場合の意向



問10-(2)　介護経験の有無

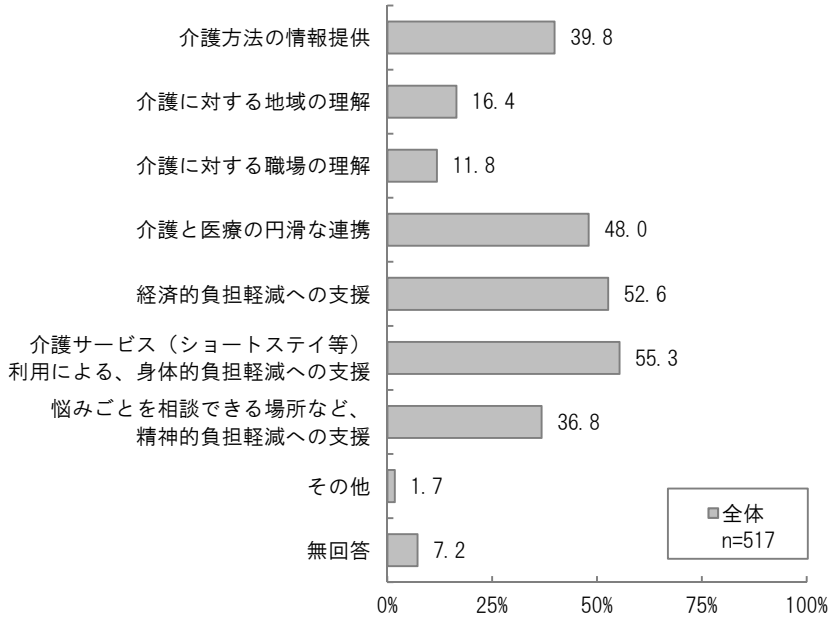


全体 n=517

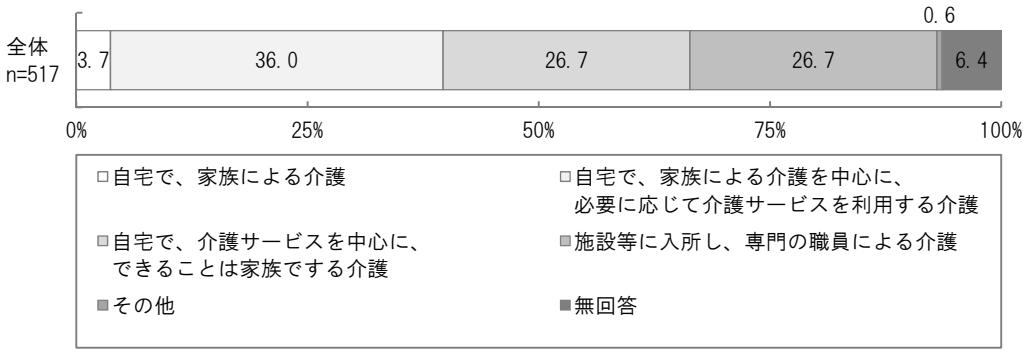
○在宅介護をする家族に対する支援として必要なことをみると、「介護サービス（ショートステイ等）利用による、身体的負担軽減への支援」（55.3%）が最も多く、次いで「経済的負担軽減への支援」（52.6%）、「介護と医療の円滑な連携」（48.0%）の順となっています。

○今後の高齢者介護のあり方として望ましいことをみると、「自宅で、家族による介護を中心に、必要に応じて介護サービスを利用する介護」（36.0%）が最も多く、次いで「自宅で、介護サービスを中心に、できることは家族でする介護」「施設等に入所し、専門の職員による介護」（各 26.7%）となっています。

問10-(3)　在宅介護をする家族に対する支援として必要なこと



問10-(4)　今後の高齢者介護のあり方として望ましいこと



11　自動車の運転について

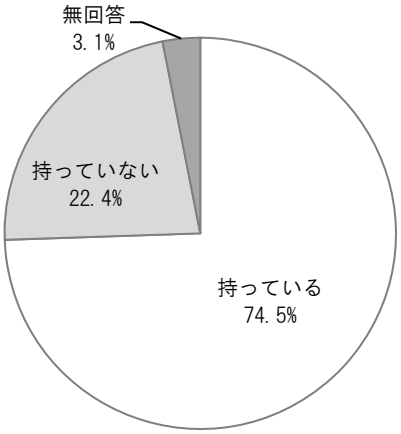
（１）交通手段の確保

○自動車などの免許を持っているかをみると、74.5%が「持っている」と回答しています。

○普段から自分で運転しているかをみると、「常に運転している」（62.7%）が最も多くなっており、「まったく運転しない」が 20.1%います。

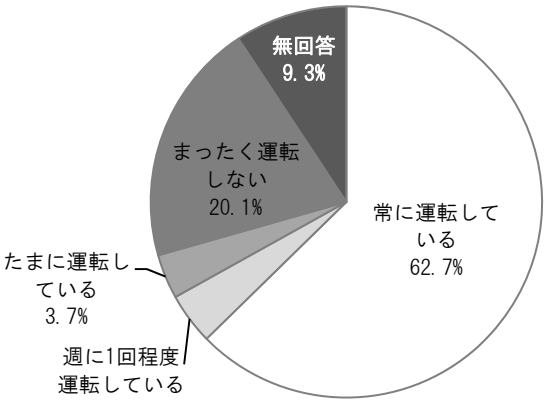
○交通手段を変えざるを得なくなった場合の代わりの手段をみると、「徒歩」「タクシー」（各44.7%）が最も多く、次いで「自動車（人に乗せてもらう）」（41.8%）となっています。

問11-(1)　自動車などの免許を持っているか



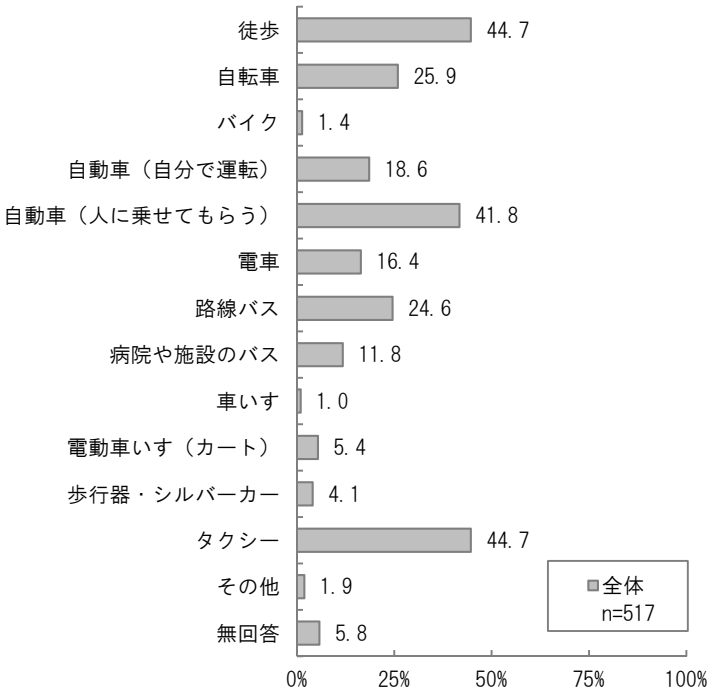
全体 n=517

問11-(2)　普段から自分で運転しているか



全体 n=517

問11-(3)　交通手段を変えざるを得なくなった場合の代わりの手段



12　高齢者福祉の認識について

（１）高齢者福祉に対する認識

○高齢者介護への関心の有無をみると、77.9%が関心があると回答しています。

○家族を介護することについての抵抗感の有無をみると、67.7%が抵抗がないと回答しています。一方、家族に介護されることについての抵抗感の有無をみると、41.6%が抵抗があると回答しています。

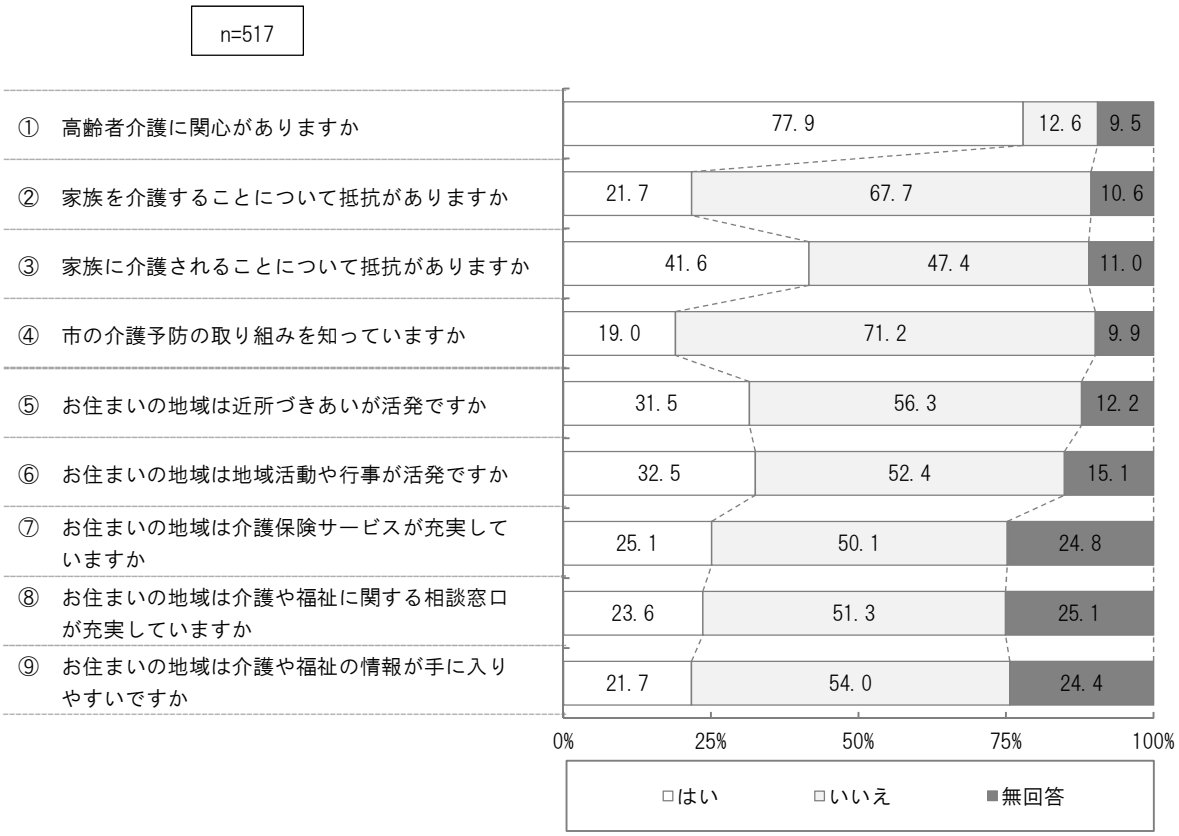
○市の介護予防の取り組みについての周知状況をみると、71.2%が知らないと回答しています。

○住んでいる地域についてみると、近所づきあいでは 56.3%が、地域活動や行事では 52.4%が活発ではないと回答しています。

○介護保険サービスが充実しているかをみると、50.1%が充実していないと回答しています。

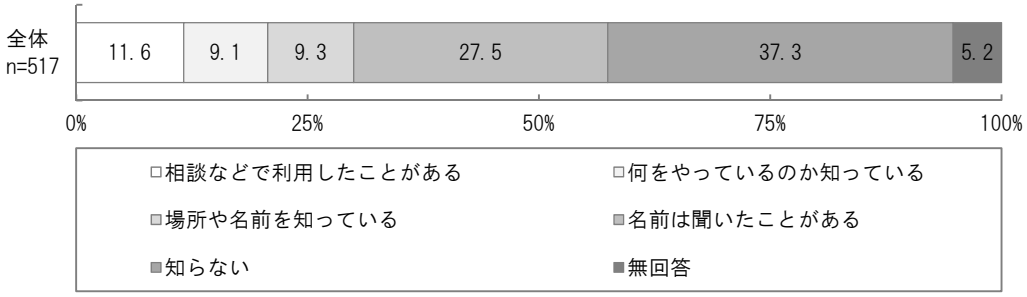
○介護や福祉についてみると、51.3%が相談窓口が充実していないと回答し、54.0%が情報が手に入りにくいと回答しています。

問12-(1)　高齢者福祉の認識に関する事柄



○「高齢者相談センター（地域包括支援センター）」についての周知状況をみると、「知らない」（37.3%）が最も多く、次いで「名前は聞いたことがある」（27.5%）、「相談などで利用したことがある」（11.6%）の順となっています。

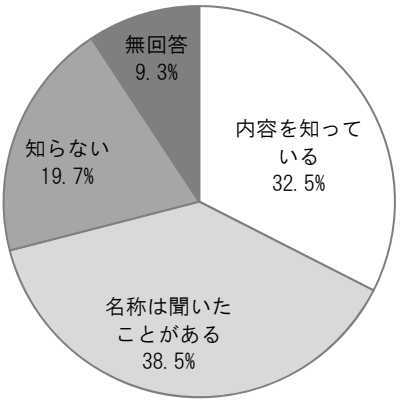
問12-(2)　「高齢者相談センター（地域包括支援センター）」についての周知状況



（２）高齢者虐待について

○「高齢者虐待」についての周知状況をみると、「名称は聞いたことがある」（38.5%）が最も多く、次いで「内容を知っている」（32.5%）となっています。一方、「知らない」は 19.7%でした。

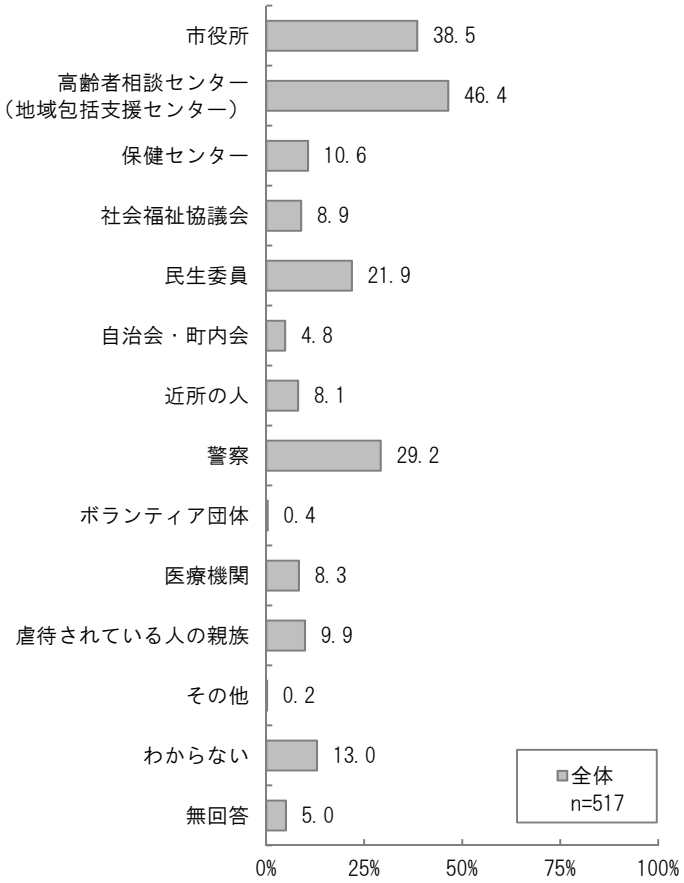
問12-(3)　「高齢者虐待」についての周知状況



全体 n=517

○「高齢者虐待」を疑った時の相談先をみると、「高齢者相談センター（地域包括支援センター）」（46.4%）が最も多く、次いで「市役所」（38.5%）、「警察」（29.2%）、「民生委員」（21.9）、「保健センター」（10.6%）となっています。「わからない」は 13.0%でした。

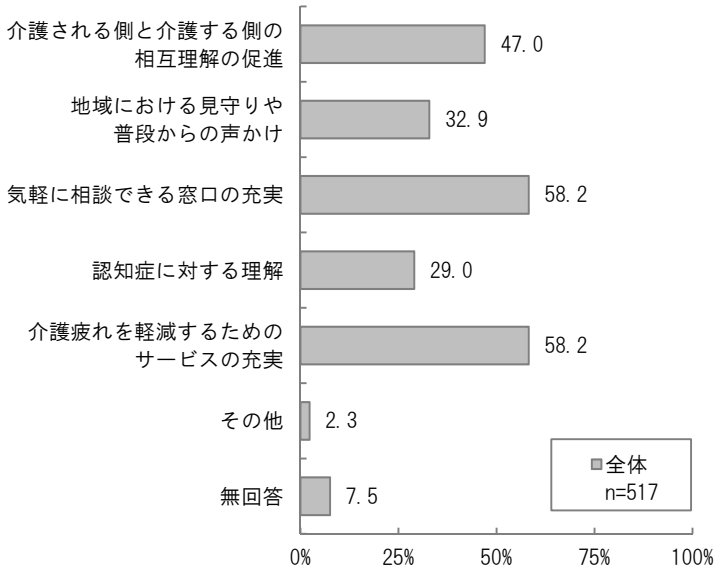
問12-(4)　「高齢者虐待」を疑った時の相談先



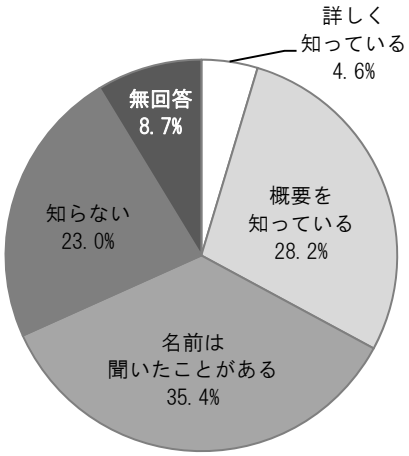
○高齢者虐待を防止するために必要なことをみると、「気軽に相談できる窓口の充実」「介護疲れを軽減するためのサービスの充実」（各 58.2%）が最も多く、次いで「介護される側と介護する側の相互理解の促進」（47.0%）、「地域における見守りや普段からの声かけ」（32.9%）、「認知症に対する理解」（29.0%）の順となっています。

○「成年後見制度」についての周知状況をみると、「名前は聞いたことがある」（35.4%）が最も多く、次いで「概要を知っている」（28.2%）となっています。「知らない」は 23.0%でした。

問12-(5)　高齢者虐待を防止するために必要なこと



問12-(6)　「成年後見制度」についての周知状況

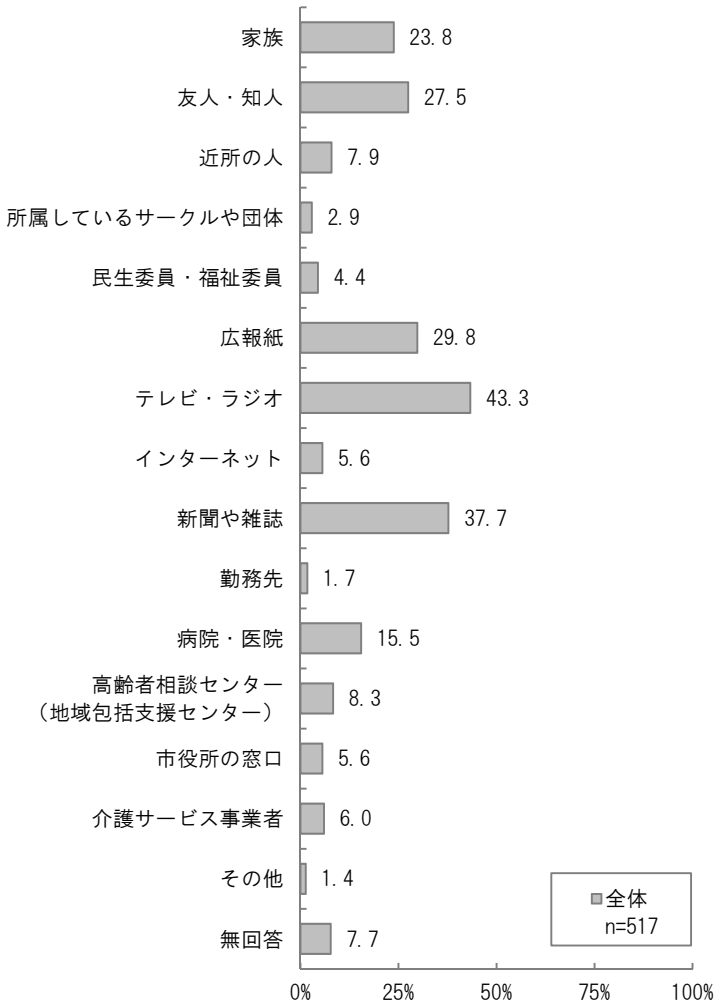


全体 n=517

（３）介護・福祉・医療に関する情報について

○介護・福祉・医療に関する知識や情報の取得方法をみると、「テレビ・ラジオ」（43.3%）が最も多く、次いで「新聞や雑誌」（37.7%）、「広報紙」（29.8%）、「友人・知人」（27.5%）、「家族」（23.8%）、「病院・医院」（15.5%）の順となっています。

問12-(7)　介護・福祉・医療に関する知識や情報の取得方法

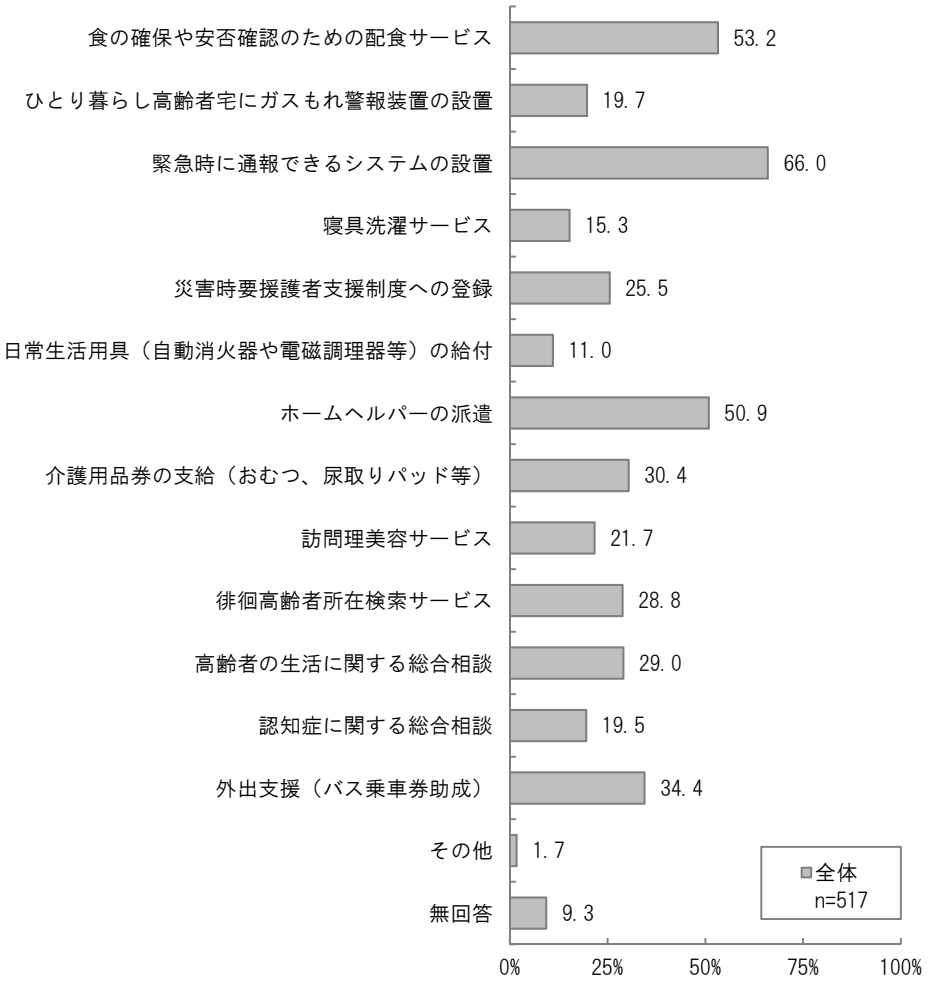


13　今後の高齢者福祉について

（１）必要な高齢者福祉サービス

○将来、必要性が高まると思われる高齢者福祉サービスをみると、「緊急時に通報できるシステムの設置」（66.0%）が最も多く、次いで「食の確保や安否確認のための配食サービス」（53.2%）、「ホームヘルパーの派遣」（50.9%）の順となっています。

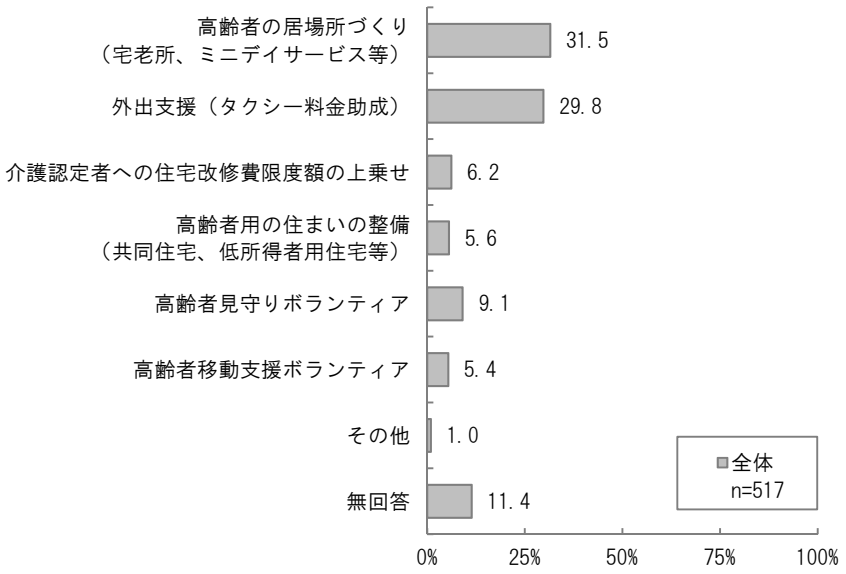
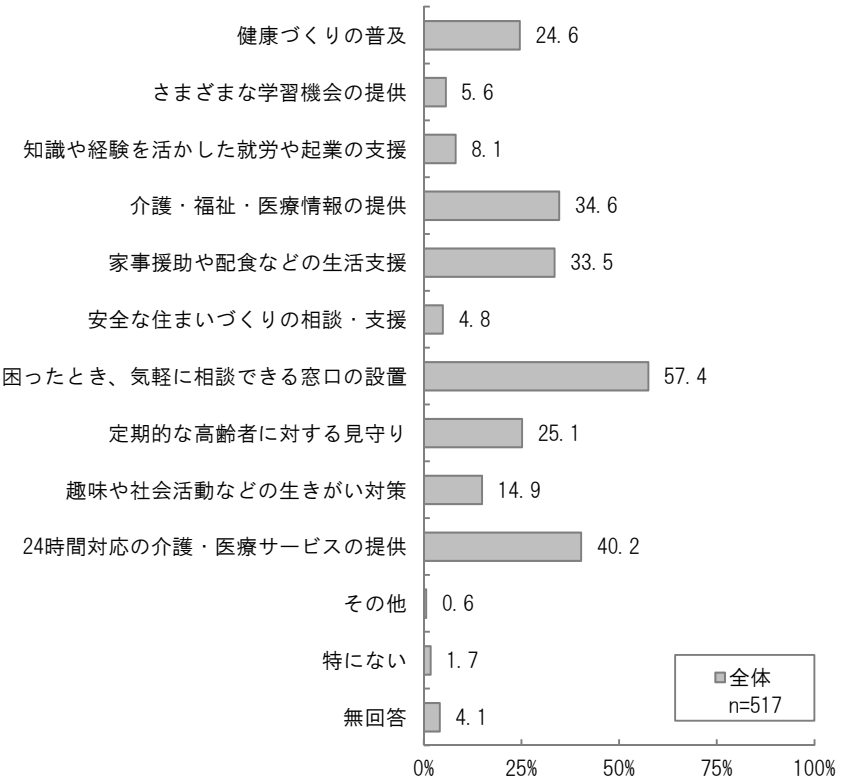
問13-(1)　将来、必要性が高まると思われる高齢者福祉サービス



○豊川市で未実施の施策について必要だと思うものをみると、「高齢者の居場所づくり（宅老所、ミニデイサービス等）」（31.5%）が最も多く、次いで「外出支援（タクシー料金助成）」（29.8%）となっています。

○住み慣れた地域で最後まで過ごすために望む施策をみると、「困ったとき、気軽に相談できる窓口の設置」（57.4%）が最も多く、次いで「24 時間対応の介護・医療サービスの提供」（40.2%）、「介護・福祉・医療情報の提供」（34.6%）、「家事援助や配食などの生活支援」（33.5%）の順となっています。

問13-(2)　豊川市で未実施の施策について必要だと思うもの



問13-(3)　住み慣れた地域で最後まで過ごすために望む施策